

KOMATSU

コマツ栗津工場OB会

会誌 第37号



研修センタ見学会

“ 2016 ”
平成 28 年

本号内容のあらまし

OB会 平成27年度行事報告

フォトハイライト

会員寄稿文集

随筆、紀行文、思い出、など

地区活動報告・トピックス

特集記事（第66回全国植樹祭）

表紙の説明

題 名 総合研修センタ見学会
撮影日時 平成27年3月27日
撮 影 者 向井 良夫

昨年3月27日、こまつの杜にある「総合研修センタ見学会」を実施しました。
はじめに大会議室にて佐藤所長から説明があり、テクノトレーニングセンタを含む全体を案内していただきました。

巻頭のご挨拶

コマツ栗津工場OB会

会長 西尾 皓史

コマツOB会「会誌」第三十七号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

平成二十七年度も残すところあと僅かとなりましたが、本年度も会員各位には、「こまつの杜」ボランティア活動を含め、OB会の活動行事に多数参加して頂き本当に有難うございました。

ここ数年来の栗津工場OB会活動について振り返って見ると、特筆すべきことは、「こまつの杜」OBボランティア活動の展開によって、OB会員の活動行事への参加延べ人数が飛躍的に伸び、従来のOB会活動に比して、二倍をはるかに超えるほどの大幅に増えたことだと思えます。

申し上げるまでもなく、我々OB会の目的は規約にある通り、「会員相互の親睦・交流を図ること。」ですが、「こまつの杜」ボランティア活動へ参加することによって、会員はお互いに現役時代に優るとも劣らない親睦・交流を深めているという現状を見るにつけ、このボランティア活動は、将に、OB

会の目的そのものを実現する典型的な活動になったものと強く感じております。

加えて、石川県内のみならず、全国各地、遠くは九州や北海道・東北から、また海外からも「こまつの杜」へ来場される方々のご案内、そして、各種イベントと理科教室の開催は、コマツの地域社会への貢献、CSR活動としてその成果が広く認められ、コマツのCC部・CSR部・人事部から感謝されると同時に大きなご支援も頂いております。

勿論、栗津工場OB会の組織は、社会福祉法人やNPO法人のように、国や地方自治体から認可されたものではなく、単なる任意団体であります。

従って、組織体制は脆弱で、規約や文書管理等も不完全なものにすぎませんが、例え小さな政府（組織）であっても、「会員相互の親睦・交流」を実現するための活動は大きく花開かせていかなければならないと思っております。

さて、平成二十七年度のOB会活動・行事については、六月の「物故者追悼法要」は、一昨年、昨年度に引き続いてセレモニーホールで開催し、多くのご遺族やOB会員の参列を頂き、厳粛な中に心のこもった追悼法要を執

り行わせて頂きました。

六月の遠征ウォーキング「天橋立八千本の松並木を歩く」、十月の近郊ウォーク「浅井堰古戦場を巡るウォーク」、十月の国内旅行「トヨタ自動車工場見学と名古屋新名所見物の旅」には多数の会員に参加いただき、楽しく有意義な中にも大盛況で行事を執り行うことができたことは大変喜ばしいことです。

そして、ゴルフ、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、のゴルフ三兄弟については、例年通り同好会活動を含めて多くの参加者で大変盛り上がりを見せ、OB会行事の中では、堂々とした存在感を見せてくれました。

第三回「文化祭」には、百名を超える会員に参加して頂き、「講演会」「カラオケ大会」「折り紙教室」「囲碁大会」「将棋大会」、いずれも熱戦を繰り広げ、朝九時から午後四時まで、松風荘は熱気にあふれておりました。

また例年通り、米寿のお祝い、長期療養者のお見舞い、また、亡くなられた方への弔意も、これまで通り丁寧に実施してきましたし、これからも心のこもった対応をして参りたいと思えます。

今後とも、栗津工場OB会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

第三十八回 定期総会を開催

平成二十七年行事計画・予算・新役員などを決定
昼食懇親会は出身職場ごとの席で交流を深める

開催日時 平成27年4月24日（金）
午前10時～

開催場所 小松市民センター 大ホール

出席者 会員332名、来賓8名、計340名

◆ 総会次第 ◆

開会の辞 小枝敬一常任理事（司会、東陵地区）

OB会会長挨拶 西尾皓史会長

ご来賓の祝辞

和田慎司小松市長（OB会会員）

山下修二コマツ常務執行役員栗津工場長

ほか栗津工場、金沢工場、特機本部、ユニオン、

わくわくコマツ館代表の出席者を紹介

祝電披露

大橋徹二コマツ代表取締役社長（兼）CEO

榊原公雄コマツユニオン中央執行委員長

宮崎浩一コマツユニオン北陸支部執行委員長

ほか森常務執行役員、浦野執行役員人事部長、

社友会、他工場OB会祝電披露

議長選出 阿木清隆常任理事（山代山中地区）



第1号議案

- ① 平成26年度行事結果報告
- ② 平成26年度会計決算報告
- ③ 平成26年度会計監査報告

以上の報告を拍手で承認

第2号議案

① 新役員の承認

会計（常任理事） 洲崎 利圭（稚松）

新任地区理事

寺田 進（辰口）

吉田 米蔵（中海）

岡田 宗利（八幡）

高橋 他二郎（今江）

高橋 政一（月津）

新任婦人部

婦人部長 福井 ひろみ（上小松）

婦人副部長 谷口 光恵（向本折）

同 谷口 礼子（国府）

以上、拍手で承認



第3号議案

①平成27年度行事計画について

向井良夫事務局長が提案説明（別掲）

②平成27年度会計予算について

洲崎利圭会計が提案説明（別掲）

以上について、原案通り拍手で承認

閉会の辞 前田昭則副会長

こまつの杜における活動の紹介

総会終了後、「わくわくコマツ館」シニアアドバイザーの館山善治氏より、「こまつの杜」における様々な活動について、報告がありました。日頃の御礼と今後のさらなる協力の依頼がありました。またロビーでも紹介コーナーが設けられました。

昼食懇親会

出身職場ごとのテーブルで旧交を温める

この後、小ホールに場所を移し、昼食懇親会を開催しました。

昨年同様今年も出身職場ごとに席について頂くことにしましたが、久しぶりのなつかしい仲間との昼食に話はずんだようです。

総合同会は前田昭則副会長（寺井）が担当。

最初に、元コマツ役員の日置政克氏から「グローバルチームワークで働くこと。37年のコマツ人生で学んだこと」と題して講演がありました。この後アトラクションとしてオカリナサークル「あすなろ」の皆さんによるオカリナの演奏が行われました。

平成27年度 会計予算

平成27年度 行事計画表

収入明細

項目	前年度実績	27年度予算
繰越額	104,212	110,720
会員会費	5,113,500	5,019,000
入会金	111,500	111,500
賛助金	2,200,000	2,200,000
雑収入	399,138	375,000
合計	7,928,350	7,816,220

支出明細

項目	前年度実績	27年度予算
定期総会費	717,408	660,000
地区助成金	991,500	970,000
旅行助成金	72,591	80,000
追悼法要金	312,407	370,000
共済費	1,755,065	1,750,000
会議費	103,499	100,000
会誌発行費	1,153,800	1,153,000
名簿発行費	93,960	95,000
事務局手当費	580,000	580,000
会報発行費	373,999	370,000
通信費	222,999	220,000
地区事務費	215,000	211,500
クラブ活動費	313,104	280,000
地区連絡会議	308,022	190,000
雑費	223,504	223,000
名簿引当金	200,000	250,000
特別積立金	0	0
退職者連合会費	70,000	70,000
文化祭	110,772	100,000
支出合計	7,817,630	7,672,500
次期繰越額	110,720	143,720
合計	7,928,350	7,816,220

区分	行事名	実施日	場所
総会 旅行	38回定期総会	4/24	市民センタ
	53回国内旅行	10/27-28	名古屋方面
	27回海外旅行	11/9-16	スペイン・ポルトガル
スポーツ	17回クラウンゴルフ大会	5/21	市民センタ
	15回ゴルフ大会	10/1	小松CC
	15回パークゴルフ大会	9/24	木場湯公園
	ウォーキング遠征	6/4	天橋立
	ウォーキング近郊	10/7	浅井畷古戦場
文化	第3回文化祭	11/25	松風荘
	会誌37号発行	3月	投稿募集
	会員名簿発行	9月	(5年毎)
慶弔	米寿・白寿のお祝	11月	対象者宅
	長期重度療養者見舞	6月・11月	介護3以上
	会員・配偶者死亡弔慰	都度	弔慰基準
	38回物故者追悼法要	6/13	紫雲閣
地域貢献	こまつの杜ボランティア	通年	
情報伝達	会報の発行	年4回	全員配布
	ネット活用勉強会	随時	
会員組織	定年退職者説明会	5月・11月	栗工
	新入会員名簿発行	1月	全員配布
	理事会・常任理事会	都度	
	地区連絡会	7/12	松風荘
	地区総会・行事	都度	各地区
	他工場OB会交流	都度	
対外	県退職者連合	都度	

特別会計の収支見込み

収入：名簿積立金 250,000円

支出：本年度会員名簿発行、ほか



出身職場ごとの昼食懇親会会場



日置政克氏の講演

第三十八回物故者追悼法要

セレモニー式場にて執行する

延べ 一千七百六十名の先輩のご冥福を祈る

期日 平成27年6月13日（土）

午後2時30分

場所 小松市城南町

「サンレー小松紫雲閣」

平成二十七年度の物故者追悼法要は、六月十三日（土）午後二時半から、昨年度亡くなられた七十一名を含む、OB会設立以来の物故会員延べ一千七百六十名の諸先輩を偲び、厳粛なうちに法要を行いました。

会場は昨年と同様市内のセレモニー式場において行いました。

当日は、ご遺族百七十六名、会社・ユニオン代表のご来賓九名、OB会員五十三名、あわせて二百三十八名が参加のもと、菊で飾られた祭壇および両側に並ぶ法名軸、会社・ユニオンから届けられた生花を前に、先人のご冥福をお祈りいたしました。

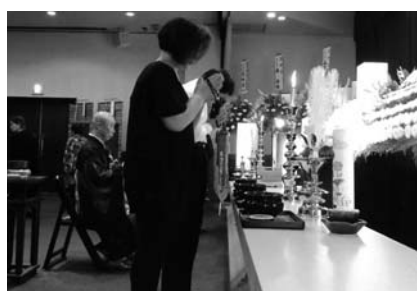
法要は向井良夫事務局長の司会ではじまり、最初に西尾皓史OB会会長が挨拶を行い、次にご来賓を代表してコマツ常務執行役員栗津工場長の山下修二様、および、ユニオン北陸支部副執行委員長の森林 清様から、ご丁寧なる追悼のご挨拶をいただきました。



また、追悼電報が大橋徹ニコマツ代表取締役社長（兼）CEO、榊原公雄コマツユニオン中央

執行委員長ほか各方面から寄せられていることが披露されました。

このあと、市内本折町「本光寺」ご導師様によるお経があげられる中、昨年度亡くなられた方のお名前が読み上げられ、ご遺族がお焼香、続いて参加者全員が順次焼香を行いました。



ご法話のあと、ご遺族を代表し、上小松地区の故千田 學様の長男にあたられる千田了介様より謝辞が述べられ、竹田敏洋OB会副会長の閉会の辞で終了しました。

なお、当日ご多忙の中参列いただいたご来賓は、ご挨拶された二名のほか次の方々でした。
森金沢工場長、斉藤栗津総務部長、吉本特機事業副本部長、北瀬ユニオン書記長、加藤栗津総務課長、木本金沢総務課主査、魚岸栗津庶務課員の皆様でした。

国内旅行 通算五十三回

トヨタ自動車工場見学と

名古屋新名所見物の旅

期日 平成27年10月27日（火）

～10月28日（水）

行先 名古屋城・名古屋市科学館・蒲郡

温泉泊及びトヨタ元町工場見学・

リニア鉄道館など

平成二十七年度の国内旅行には、四十二名が参加し、名古屋城、名古屋市科学館、トヨタ自動車元町工場などを見学してきました。



十月二十七日早朝、大型バス一台で小松を出発した一行は、北陸・名神・名古屋高速を順調に走り、午前10時40分頃名古屋城に到着しました。天守閣をはじめ館内の展示品を見学。

昼食後、午後からは名古屋市科学館を見学。生命館や理工館などの1階から6階までの展示品の見学や実験を体験しました。この後岡崎城公園をまわり、三河武士の館「家康館」や岡崎城を見学。この夜は、蒲郡温泉「ホテル竹島」にて宿泊。夕食懇親会ではカラオケを楽しみ、一日目の旅の疲れを癒しました。

翌二十八日には、トヨタ自動車元町工場を見学しました。



元町工場は、クラウン、エスティマ、マークXを生産している主力工場です。組立ラインを案内していただきました。トヨタの生産方式である、「ジャストインタイム」「自動化」「ポカヨケ」を感じることができた見学でした。この後トヨタ会館も見学し、環境や最新技術についても学びました。

名古屋港で昼食の後、午後はJR東海のリニア鉄道館を見学。懐かしいSLや在来線の電車から、新幹線の車両を見学。リニアのモデルでの試乗体験などで楽しみました。

午後七時半ごろ無事帰途につきました。



ウォーキングの集い

「天橋立八千本松並木」を歩く

浅井礮古戦場跡ウォークも実施



期日 平成27年6月4日（木）

場所 天橋立（京都府）

「日本三景」の一つである「天橋立」八千本松並木の中のウォーキングを実施。

参加者四十名はバスにて朝六時に小松を出発。大変素晴らしい晴天に恵まれ、予定通り九時半ごろ天橋立に到着。



出発点近くの砂浜で準備体操を行った後、午前十時にスタート。全長3・6kmに及ぶ白い砂浜と八千本といわれる松並木の中を、各自の体力にあったコースで楽しみました。

●Aコース（8Km）：智恩寺駐車場～八千本松並木～松並木石柱～府中公園（昼食）～元伊勢籠神社～八千本松並木～駐車場（ゴール）

●Bコース（5Km）：智恩寺駐車場～八千本松並木～松並木石柱～八千本松並木～駐車場（ゴール・昼食）

●Cコース（3Km）：智恩寺駐車場～八千本松並木の途中でUターン～駐車場（ゴール・昼食）
●Dコース（5Km）：サイクリングでBコースを走る（実際はAコースを走ったようです）

殆どの方は予定より早くスタート地点へゴールし、天橋立ビュウランド（文殊山の頂上）へリフトなどを利用して登り、有名な「股のぞき」の景観を楽しみました。帰途、近くの温泉「舞鶴たかお温泉」で入浴して帰りました。

浅井礮古戦場跡ウォーク

期日 平成27年10月14日（水）

場所 浅井礮古戦場跡（大領町）

今年の近郊ウォークには23名が参加しました。今から約四百年余り前の慶長五年、前田利長と丹羽長重が関ヶ原合戦の前哨戦として戦った古戦場である。

天候にも恵まれ、午前八時四十五分に木場潟公園北園地を出発。水田の中をしばらく歩いて浅井礮古戦場跡へ到着。説明文や戦死した九基の墓を見学。この後南浅井町経由で、「道の駅こまつ木場潟」をめざす。途中希望者のみ蓮台寺城跡も立ち寄りました。小休止の後、木場潟北園地まで歩きゴール。約7kmのコースでした。



総合研修センタ見学会

及びパソコン教室の開催

期日 平成27年3月27日（金）

26年度末ギリギリの日に総合研修センタ見学会を実施した。参加者は55名で大会議室にて最初に西尾会長が挨拶をした後、コマツウエイ総合研修センタの佐藤真人所長より研修センタの紹介をしていただきました。

2011年旧小松工場跡地が「こまつの杜」となり、それまでコマツ本社や小山研修所のほか栃木・大阪にあったテクノセンタなどを含めた総合教育機関が集約され、総合研修センタ&テクノトレーニングセンタとしてスタートしました。

入社式から新入社員教育をはじめ、グローバル会議、サービスマン教育や品質管理教育など国内・海外をとわず年間約3万人が来場していること。宿泊や飲食設備がないので、地域経済効果が大きいこと。このほか国内や海外向けQC教育への取り組み、海外現地法人向け教育の取り組みについても詳しく説明がありました。

この後、各会議室とテクノトレーニングセンタを案内していただきました。会議室に地元になじみの樹木や花の名前がついており、参加者から樹木や花の写真を掲示したらとの提案があり、後日左記写真の様に掲示されました。



パソコン教室

見学会終了後、研修センタ大会議室にてパソコン教室を開催した。参加者は24名でした。

OB会のホームページの見方、フェースブックの見方などについて勉強していただきました。パソコンを持参した方、研修センタから借用したパソコンを利用する方など、初めて教室に参加される方も多く、既に利用されている方に講師として指導していただきました。終了後のアンケートでは回答者の多くが少し理解できたこと、次回の教室もぜひ参加したいとのことでした。



なお、こまつの杜「わくわくコマツ2号館」ボランティアルーム（OB会員専用部屋）にパソコンが設置されました。パソコン初めての方もぜひ触れてみてください。

平成二十七年
スポーツ・文化・共済・ボランティア
活動報告

第十七回 グラウンドゴルフ大会

□開催日 5月21日(木)

□場所 小松市民センター多目的広場

□参加者 84名

□大会成績(4Rスコア)

男性の部

優勝 北口啓二(東陵) 70

準優勝 宮崎 勲(湯谷) 71

第3位 助田俊勝(根上) 71

第4位 南 敏治(御幸) 71

第5位 杉田 登(湯谷) 72

女性の部

優勝 儀田紀子(八幡) 76

準優勝 北口知子(東陵) 78

第3位 中村千代子(東陵) 80

ホールインワン賞(指定ホール) 大間豊光・吉川正雄

餅山広喜・北口啓二・北村卓雄・杉田 登・蕪城重廣

南 敏治・朝浦 馨・金森弘孝・宮越美智子・

助田俊勝・大島義秋・内田美枝子(以上十四名)



第十五回 パークゴルフ大会

□開催日 9月24日(木)

□場所 木場潟公園 サクラ・メダカコース

□参加者 52名

□大会成績(2Rスコア)

男性の部

優勝 中村 捷(御幸) 97

準優勝 盛戸良三(根上) 99

第3位 石川順一(大聖寺) 102

第4位 栗田金次郎(稚松) 103

第5位 川岸吉隆(月津) 103

女性の部

優勝 坊田房子(御幸) 107

準優勝 太田美智子(八幡) 110

第3位 萩本慶子(国府) 112

ホールインワン賞

石川順一



第十五回 ゴルフ大会

□開催日 10月1日(木)

□場所 小松カントリークラブ

□参加者 59名

□大会成績(Wペリア方式 スコアはネット)

優勝 山下賢司(中海) 71・6

準優勝 小崎富美男(月津) 72・2

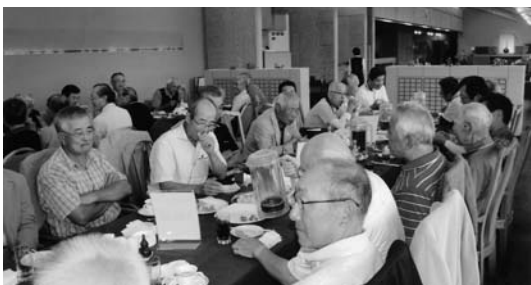
第3位 東出一夫(山代山中) 72・6

第4位 中屋和明(中海) 72・6

第5位 中村幸雄(八幡) 72・8

ベストグロス賞 山田俊昭(蓮代寺) 82

優勝された山下賢司さんは九月に行われる、コマツシニアオープンのプロアマ戦に出場します。



第三回 文化祭を開催

□開催日 11月25日(水)

□場所 コマツ松風荘(小松市木場町)

□参加者 約百名

①文化講演会 参加者 約八十名

「日本の安全保障と小松基地の活動」

講師 航空自衛隊第六航空団指令

兼小松基地司令 南雲 憲一郎氏



②カラオケ大会 出演者15名

最優秀歌唱賞 杉田 登(湯谷)

優秀歌唱賞 横山信一(上小松)

同 河村良平(寺井)

特別賞 坂下俊一(国府)

エレガンス賞 本庄惇子(東陵)

審査委員5名で審査(委員長山本忠男氏)



③囲碁大会 参加者10名

Aグループ優勝 堂道剋良(大丸)

同 準優勝 中谷秀夫(山代山中)

同 第3位 中野昭彦(東陵)

Bグループ優勝 横田謙一(金沢)

同 準優勝 北口邦男(符津)

同 第3位 宮崎与志嗣(大聖寺)

④将棋大会 参加者16名

Aグループ優勝 堀川一成(月津)

同 準優勝 西浦文雄(大丸)

同 第3位 勘田 穰(上小松)

Bグループ優勝 村田真二(根上)

同 準優勝 中村孝洋(符津)

同 第3位 山岸勝昭(稚松)

大会要領とともに、段級位によりA・Bグループに分け、予選2回戦戦った結果、成績上位4名の決勝トーナメントで順位を決定

⑤折り紙教室

講師 中村 博氏(松任)

前田昭則氏(寺井)

参加者 10名



米寿のお祝い

平成27年めでたく米寿を迎えられた昭和二年(1927年)生れの25名の方々にお祝をお届けしました(写真 16頁〜17頁)

北川良三(金沢)、南 登(美川川北)

米沢喬之(根上)、山田正二(寺井)

向井昭二(湯谷)、室田重雄(湯谷)

山西彰夫(辰口)、向江幸作(辰口)

中町晴夫(国府)、本田外治(国府)

通次安次(国府)、山本孝二(能美)

吉田善久(荒屋)、橋本与一(松東)

松崎武雄（松東）、 深田 繁（向本折）
西田末吉（向本折）、 池田徳一（向本折）
新保行雄（今江）、 馬場 博（御幸）
川南英夫（御幸）、 加藤 仁（月津）
辻 幸夫（山代山中）、 西田利雄（山代山中）
高原信雄（福井）

白寿のお祝い

大正五年生まれの吉田富久さん（中海）が、めでたく白寿（九十九歳）をむかえられました。

長期重度療養者へのお見舞い

3ヶ月以上に亘り療養し、且つ介護度3以上と認定された方にお見舞いを差し上げました。

平成27年上期 7名、 下期 3名

亡くなられた方への弔慰

平成27年4月～28年1月末日までに亡くなられた方は次の通りで、弔慰基準に基づき弔慰を表しました。

・会員本人の死亡 53名

お香典（一万円）、生花一基、弔電、OB会旗を掲出し、地区代表が弔問しました。
会社からは、社長名の弔電、工場長または事業所長名の生花をいただきました。

・会員配偶者の死亡 22名

お香典、弔電、地区代表が弔問しました。

・追悼法要の執行

OB会設立以来、平成27年3月までの物故会員1760名の追悼法要を6月執行しました。（別掲）

県退職者連合グラウンドゴルフ大会

□開催日 5月27日（水）

□場 所 金沢市民芸術村広場

□参加者 コマツから6組30名（全382名）
□大会結果
団体・個人とも入賞はありませんでした。

里山保全に竹林間伐ボランティア

石川県退職者連合が行う里山保全活動の一環として、加賀市橋立自然公園に増えてくる竹林の間伐作業ボランティアに、今年度も参加しました。（春と秋の2回）

①5月21日（木）

大聖寺地区会員と本部役員を含め、12名が参加した。太く繁った竹をノコギリで間引きする作業に汗を流しました。

②11月4日（水）

春と同じく12名が参加した。



こまつの杜ボランティア活動

こまつの杜が開設されて5周年をむかえ、すでに延べ26万人を超える方が入園されています。

OB会では、次の4つの部会に分かれてボランティア活動を行っております。

●コマツ館スクスク教室部会

コマツ館2階の教室にて、小学生を対象に理科その他の学習、夏休みの宿題の手伝いを通じ、理科や物づくりへの興味を抱くきっかけとなるカリキュラムを作り実行。

●里山イベント部会

里山の木々、草花、小川などの自然観察を通して、こどもたちが自然に興味、関心を持ち、自然の中で遊ぶ楽しさを感じさせるようなイベントを企画し実行。

●里山グリーン部会

里山、広場、小川ゾーンでの小川清掃・落葉回収などの清掃ボランティア、および、花壇の手入れ、季節の花植えボランティアなど交代で作業にあたる。「花育」を開始。

●サポート部会

超大型ダンプロック930E、ミニ油圧ショベルの試乗をはじめ、来館者やイベントなど、こまつの杜やわくわくコマツ館運営のサポートを行う。

こまつの杜OBボランティア 募集中！

新たにボランティア参加いただける方は、地区役員・委員に希望部会をお申し出下さい。

コマツ栗津工場OB会 会誌第37号 総合目次

表 題	地 区	氏 名	頁
巻頭のご挨拶	OB会会長	西尾 皓史	1
第38回定期総会を開催：行事計画・予算など決定			2
第38回物故者追悼法要 セレモニー式場で執行			4
国内旅行：トヨタ自動車工場見学と名古屋新名所見物の旅			5
ウオーキングの集い：「天橋立」、「浅井堰古戦場跡」			6
総合研修センタ見学会及びパソコン教室を開催			7
スポーツ・文化・共済・ボランティア活動報告			8
会誌37号 総合目次			11
平成27年度 OB会役員の紹介			12
平成27年度 行事フォト・ハイライト			14
米寿・白寿の皆さん おめでとうございます			16
地区活動 フォトメモリー	各地区		18
こまつの杜OBボランティア活動報告			24
教室部会の概要	上小松地区	石田 進	30
こまつの杜イベント部会活動	蓮代寺地区	吉田 晋	31
里山グリーン部会	上小松地区	大間 豊光	31
930Eダンプトラックボランティアに参加して	稚松地区	洲崎 利圭	32
死に方上手	矢田野地区	松田 靖雄	33
海外現地生産のこと（その5）	国府地区	西尾 皓史	34
白山山系 中川の泥水	辰口地区	片山 誠孝	36
全国交換大会に参加して	符津地区	宮越 信夫	36
知覧にて不戦を誓う	東陵地区	山 勝三	37
駅伝 その2	寺井地区	本多 政明	38
折り紙飛行機作り	国府地区	山本 孝義	39
故郷は今	矢田野地区	松田 靖雄	40
米寿祝い記念品贈呈に思う	寺井地区	前田 昭則	41
戦後70年と安保体制	美川・川北地区	平野 松雄	42
嗚呼 道下幸助さん逝く	辰口地区	永山 純夫	43
特集記事「第66回全国植樹祭」			
人生大晩年に会った忘れ得ぬ感動的な出来事	氷見寿松会	大石 勝巳	47
（メール）	氷見寿松会	坂下 見秋	47
全国植樹祭に参加して	コマツ川崎OB会	高松 幸一郎	48
（メール）	コマツ川崎OB会	物部 光行	48
歌声よ陛下に届け植樹祭	東陵地区	山 勝三	49
全国植樹祭の主体・主役は誰なのか	向本折地区	小枝 俊弘	50
二度目の植樹祭	苗代地区	宮崎 紀代二	53
（メール）	社友会幹事	甫喜山 准	53
コマツ社員クラブ・保養所の紹介			54
コマツOBゴルフ同好会の紹介	蓮代寺地区	山田 俊昭	56
コマツOBグラウンドゴルフ同好会の紹介	符津地区	宮越 信夫	57
【資料】小松製作所栗津工場OB会規約			58
編集後記、次号原稿募集、発行者			60
表紙「総合研修センタ見学会」 表紙の裏に説明文			
フォトハイライト（裏表紙の裏）「総合研修センター見学会」			
裏表紙「総合研修センタ会議室入口の写真」			

平成27年度 OB会役員の紹介

理事 金沢地区  中田 侃	副会長  前田 昭則	副会長  竹田 敏洋	副会長  宮崎 紀代二	会 長  西尾 皓史
理事 辰口地区  寺田 進	会計監査  菊澤 光平	会計監査  大野 友治	常任理事  川畑 与明	事務局長  向井 良夫
理事 荒屋地区  大橋 外男	常任理事  小枝 敬一	常任理事  荒木 義昭	常任理事  山田 俊昭	会 計  洲崎 利圭
理事 符津地区  河原 達夫	常任理事  坊田 四十二	常任理事  村田 真二	常任理事  中本 久治	常任理事  山下 久輝
理事 動橋地区  村口 滋	常任理事  阿木 清隆	常任理事  北野 邦夫	常任理事  園部 荘一郎	常任理事  村井 進
蓮代寺地区理事 山田俊昭が兼務 稚松地区理事 洲崎利圭が兼務				常任理事  大間 豊光

平成27年度 OB会役員の紹介

理 事 湯谷地区



松本好太郎

理 事 寺井地区



河 村 良 平

理 事 根上地区



高 田 龍 蔵

理 事 美川川北地区



平 野 松 雄

理 事 松任地区



野 田 正 記

理 事 犬丸地区



今 西 和 夫

理 事 能美地区



竹 内 吉 昭

理 事 東陵地区



吉 村 茂

理 事 中海地区



吉 田 米 蔵

理 事 国府地区



山 本 孝 義

理 事 牧 地区



北 村 昭 之

理 事 安宅地区



豊 岡 正 俊

理 事 苗代地区



新 谷 信 秀

理 事 松東地区



小 倉 政 信

理 事 八幡地区



岡 田 宗 利

理 事 月津地区



高 橋 政 一

理 事 御幸地区



臼 岩 正 博

理 事 今江地区



高 橋 他 二 郎

理 事 向本折地区



小 枝 俊 弘

理 事 芦城地区



豊 岡 外 輝 男

理 事 分校地区



南 出 保

理 事 山代山中地区



下 出 博 明

理 事 那谷地区



山 下 豊

理 事 矢田野地区



得 田 邦 夫

理 事 粟津地区



中 田 威 蔵

婦人部副部長



谷 口 光 恵

婦人部副部長



谷 口 礼 子

婦人部部長



福 井 ひ ろ み

理 事 福井地区



谷 川 栄

理 事 大聖寺地区



上 村 純 二

平成 27 年度行事フォト・ハイライト

第 38 回定期総会 H27.4.24(金) 小松市民センター



和田市長、山下工場長など来賓の皆さん



参加された多くの会員の皆さん



日置 政克氏の講演



出身職場別の昼食懇親会

第 38 回物故者追悼法要 H27. 6. 13(土) サンレー小松紫雲閣



来賓の皆さん



参列者全員で焼香



ご遺族の皆さん



ご遺族の皆さん

平成 27 年度行事フォト・ハイライト

第3回文化祭 H27. 11. 25(水) 松風荘



熱戦（囲碁・将棋大会）



熱唱（カラオケ大会）



南雲小松基地司令の
文化講演会



国内旅行 トヨタ自工見学と名古屋新名所の旅 H27. 10. 27(火)～28(水)



名古屋城にて



トヨタ自工元町工場見学

天橋立ウオーキング H27. 6. 4(木)



浅井堰ウオーク H27. 10. 14(水)



総合研修センタ見学会 H27. 3. 27(金)



米寿の皆さん おめでとうございます

平成27年に88歳の米寿を迎えられた25名の皆様には、心からお祝いを申し上げます。



根上 米沢 喬之さんご夫妻



美川・川北 南 登さん



金沢 北川 良三さん



湯谷 室田 重雄さん



湯谷 向井 昭二さんご夫妻



寺井 山田 正二さんご夫妻



国府 中町 晴夫さんご夫妻



辰口 向江 幸作さん



辰口 山西 彰夫さんご夫妻



能美 山本 孝二さんご夫妻



国府 通次 安次さん



国府 本田 外治さんご夫妻

昭和2年(1927)の出来事・・・ ◎ 金融恐慌おこる
◎ 東京に地下鉄開通



松東 松崎 武雄さん



松東 橋本 与一さんご夫妻



荒屋 吉田 善久さん



向本折 池田 徳一さんご夫妻



向本折 西田 末吉さんご夫妻



向本折 深田 繁さん



御幸 川南 英夫さん



御幸 馬場 博さんご夫妻



今江 新保 行雄さんご夫妻



山代・山中 西田 利雄さんご夫妻



山代・山中 辻 幸夫さんご夫妻



月津 加藤 仁さんご夫妻



中海 吉田 富久さん(白寿)

白寿 の吉田さん
おめでとうございます

10月31日に99歳の白寿をめでたく
むかえられました。(大正5年生)



福井 高原 信雄さん

地区活動 フォトメモリー



根上地区 グラウンドゴルフ大会

H27.11.7 翠ヶ丘グラウンドゴルフ場 41名

曇り空でしたが、会員及び家族のグラウンドゴルフ大会が盛大に開催されました。当日はOB会員の米田敏勝能美市議会議員を迎え、41名の参加で男女別に和気あいあい競技することができました。

成績は次の通り。

男子優勝 助田 俊勝	女子優勝 村田 邦子
2位 山本 常雄	2位 山中 さち子
3位 中田 久吾郎	3位 朝浦 和美
4位 上田 宏昭	
5位 北野 順一	

報告 高田 龍蔵



松任地区 総会

H27.10.4 料亭「かつ新」 20名

H23年より亡くなった方(会員8名、配偶者2名)への黙祷の後、H27年秋の叙勲受章者、小島文治氏の受賞報告があり、会計報告や新地区委員の成木さんからの挨拶、担当地区、区割りの見直し報告を行う。小島文治さんの乾杯の音頭で懇親会にうつり、なごやかな雰囲気気で時間を忘れるほどでした。

なお8月8日に地区理事と地区委員との懇談会を開き地区委員の編成、地区懇親会、会員の健康状態把握などについて打合せしました。

報告 野田 正記



国府地区 総会

H27.3.28 国府公民館 65名

山下会長挨拶、H26年度活動報告と会計報告の承認、H27年度新役員・活動計画・予算の承認後、出戸清克氏市議選の推薦承認を行いました。引き続き西尾OB会長の発声による乾杯で懇親会が始まりました。お楽しみ抽選会と余興で盛り上がり、万才三唱で閉会。

報告 山本 孝義



寺井・湯谷地区 グラウンドゴルフ大会

H27.8.22 寺井町グラウンドゴルフ場 19名

寺井地区・湯谷地区合同の会員及び家族のグラウンドゴルフ大会が盛大に開催されました。成績は次の通り。

◎チャンピオングループ

優勝 川崎 高盛
2位 武田 邦雄
3位 増田 靖夫
4位 島崎 茂子
5位 島崎 忠夫

◎レギュラーグループ

優勝 松本 好太郎
2位 東 善男
3位 宮崎 勲
4位 東山 哲久
5位 前田 昭則

報告 河村 良平

地区活動 フォトメモリー



犬丸地区 総会

H27.3.8 南月(大川町) 11名

会員異動の報告 地区会員は40名→42名になった。
新入会者4名
27年度役員を決定 地区理事 今西和夫(島田)
委員は、林 潔(蛭川)、中村武司(犬丸・松梨)、
高橋 進(大島・城北)、今西和夫(島田・梯)
26年度会計報告を承認

報告 今西 和夫



中海地区 総会

H27.3.7 赤穂谷温泉 20名

総会の初めに、今年亡くなられた5名の物故者のご冥福を
祈り黙祷をささげた。

総会では、H26年度行事結果報告と会計報告を承認。
新役員を報告承認。

懇親会では、和田市長よりご挨拶をいただき、西木戸覚久さん
の乾杯の音頭で開宴。旧交を温め大変楽しいひとときを過ご
しました。最後に山田幸雄さんから、これからも益々元気で
頑張ろうとの声で、一本ノで散会。

報告 山崎和夫

国府地区 遊泉寺銅山跡公園 清掃ボランティア



H27.8.1
OB会員有志 21名



国府地区 グラウンドゴルフ大会

H27. 6. 14 里川町グラウンドゴルフ場 56名

男性の部 優勝 本村 孝、2位 餅山広喜、3位 田中
祈良志、4位 川崎博通、5位 山本孝義
女性の部 優勝 田中久江、2位 桜井多恵子
3位 竹村豊子

報告 山本 孝義



東陵地区 総会

H27.6.21 東陵会館 27名

冒頭に亡くなられた方々への黙祷をささげ、ご冥福を祈
りました。H26年度活動内容とOB会総会の報告後懇親
会にうつり、全員から日常心がけている事の近況報告
を行いました。耐力維持のため散歩、野菜作り、フィット
ネスクラブで運動、ボケないために脳トレーニングをして
いるとの報告でした。

報告 吉村 茂

地区活動 フォトメモリー



蓮代寺地区 総会

H27.3.8 松風荘 13名

総会では会計報告などの後、懇親会が行われた。こまつ杜、栗津工場の状況、その他の話で大いに盛り上りました。更に高齢化のため、参加者が減少しつつある事に対し、送迎バスの運用などの提案があり、会費を含め検討することとなりました。次回は更に多くの方々の参加を願うと共に、再会を約束して散会しました。

報告 山田 俊昭



八幡地区 総会

H27.3.28 なか村(軽海町) 16名

総会のはじめに、亡くなった高橋芳信様ご令室、多島五郎様、丸谷 実様のご冥福を祈って黙祷をささげた。総会に入り、H26年度会計決算報告が承認され、OB会より米寿の東山芳雄さんへのお祝い、長期療養中の四方天正勇さんへのお見舞金の報告があった。

この後「コマツの近況」として東出 篤様から中国をはじめとする海外状況と木質バイオエネルギーを活用するECO新組立工場の紹介があった。また織本耕治様から「社会貢献をめざすコマツ」として、地雷除去活動、海外での教育支援活動の熱のこもった話を聞いた。引き続き懇親会を開き、仕事仲間との久しぶりの再会を楽しんだ。次期地区理事の岡田宗利様の発声でㄇた。

報告 福田 恵一



稚松地区 総会

H27.3.22 稚松公民館 16名

総会では、H26年度活動報告ならびに新年度計画について審議承認されました。席上、永年委員として活躍された太田 悌弘さんと小淵 宏さんに功労賞が贈られました。引き続きの懇親会では、ビンゴゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。

報告 洲崎 利圭



松東地区 総会

H27.3.18 松風荘 15名

総会：H26年度経過報告、会計報告及びH27年度の役員案を報告し、満場一致で承認された。またH27年度のOB会行事予定案を報告し、積極的に参加するよう依頼するとともに、こまつ杜里山ボランティアにも積極的に参加するよう依頼した。

懇親会：飲み、語り合いで宴会が盛り上がり、2次会のカラオケでは日頃自慢の喉を披露し、大いに親交を深めることが出来た。

報告 小倉 政信

地区活動 フォトメモリー



御幸地区 総会

H27.3.14 清月(今江町) 29名

総会の初めに、亡くなった先輩諸氏のご冥福を祈り黙祷を捧げた。総会に入り、H26年度の会計・決算報告が承認され、新会員6名の紹介の後懇親会を開催。途中より和田小松市長も北陸新幹線金沢開業日と重なり、お忙しい中出席いただき小松市の状況、将来などについて報告のあと、全員和やかな雰囲気楽しい時間を過ごした。

報告 臼岩 正博



向本折地区 総会

H27.3.6 蓮翠 11名

総会では例年通りH26年度の①活動報告、②会計報告、③会員異動(入退会)、④H27年度の地区理事、地区委員の承認を行いました。この1年間「旅立の人」が無く、喜ばしい限りでした。引き続き懇親会に移り、酒を酌み交わしながら親交を深めました。終盤になって欠席予定の元地区理事の前田さんの顔出しで一層盛り上がりしました。

報告 小枝 俊弘



符津地区 総会

H27.3.21 おおくぼ旅館(栗津駅前) 34名

H26年度行事、会計決算報告などを行い承認された。また会員3名のご逝去を報告、ご冥福をお祈りしました。会員よりの要望として、符津地区単独の行事として、栗津工場の工場見学をしたいと提案があり、検討することにした。その後会員相互の親睦をはかるための懇親会を行った。

報告 河原 達夫



月津地区 総会

H27.2.8 加賀ゆめのゆ 24名

初めに、昨年亡くなられた会員のご冥福を祈って黙祷。経過報告、会計報告、役員の選出が承認された。その後懇親会に移り、杉本氏の乾杯の発声で開宴。酒を酌み交わし、会員の近況報告、昔話に盛り上がり、時間の経つのを忘れ、楽しく時を過ごした。

報告 高橋 政一

地区活動 フォトメモリー



那谷地区 総会

H27.1.28 もみじ食堂(那谷町) 9名

今年は雪も少なく、穏やかな日に総会が行われ、皆さん高齢で出席が少ないのではと心配していたが、9名の参加となった。H26年度の活動報告の後、最高齢で94歳の町出重太郎さんの「今年も元気で頑張ろう」の音頭で乾杯した。皆さん近況や今後など色々な話に花を咲かせ懇親を深め、岩崎政行さんの一本ノで散会。

報告 山下 豊



矢田野地区 総会

H27.3. 1 松風荘 25名

報告 得田 邦夫

矢田野地区 バーベキューパーティー

H27.8.28 20名 報告 中本 久治



動橋地区 総会

H27.3.27 片山津温泉 ニューマルヤ 10名

動橋地区の今年の新入会員は松下昭義さんと村橋庄一郎さんの2名で、会員数は昨年度と変わらず47名です。当地区では会員の高齢化が進んでおり、総会、懇親会出席者が10名で推移しており、今後の課題となっている。その中で唯一新入会員の松下さんが出席され、夜遅くまで懇談し、楽しいひと時をすごしました。

報告 村口 滋



山代・山中地区 総会

H27.3.24 山中温泉 ホテル翠明 17名

今年度も4名の会員が逝去され、全員でご冥福を祈り、黙祷をさされた。また1名の新会員が総会に参加してくれたので全員で歓迎しました。審議に入り仮活動報告、仮会計報告が承認された。その他では、こまつの杜ボランティアの内容がよくわからないとの問いに阿木常任理事に各活動の内容を説明していただいた。懇親会では大いに飲み、語り盛り上がりしました。それでも足りず、部屋に帰っても夜の更けるまで元気一杯親交を深めました。

報告 下出博明

金沢地区 総会

H27.3.7 「夢茶寮 海都」(金沢市有松) 22名

総会では新会員3名の紹介及び会員動向、経過報告があり、懇親会では村井さんの乾杯の音頭で始まり、お互いの近況報告、趣味の話題で盛り上がり、久しぶりに旧交を温めました。関さんの一本ノで散会。

報告 中田 侃

地区活動 フォトメモリー



福井地区 総会

H27.3.6 あわら温泉 灰屋 9名

- 1、総会 (1)H26年度活動報告
(2)H26年度決算報告
(3)入会者報告
(4)その他
- 2、懇親会 参加者全員で旧交を温めました。

報告 谷川 栄



大聖寺地区 総会

H27.5.24 料亭「山ざき」 22名

総会の初めにH26年度中に逝去された3名の会員のご冥福を祈って黙祷をささげた。第38回OB会定期総会の報告、H26年度地区経過報告では、新会員・米寿会員の紹介、地区委員2名の変更承認、県退連主催「橋立自然公園竹林伐採」の報告、会計収支報告・承認が行われた。
懇親会では最長老の松山 学さんの発声で乾杯、現況報告やカラオケで盛り上がり、一本メで散会した。

報告 上村 純二



大聖寺地区 豊かな里山作り保全ボランティア活動

H27.5.21 加賀市橋立自然公園 12名

石川県退職者連合主催の竹林伐採ボランティア活動に今年も参加した。あらかじめ赤色でマークした竹数十本を伐採し搬送。昨年はタケノコの配給がありましたが、今年は裏年でタケノコ少なく、時期的にも遅く収穫なしでした。
なお11月4日にも秋の竹林伐採に12名が参加しました。

報告 上村 純二



国府地区 秋の慰安会

H27.11.11 ホテルながやま(片山津温泉) 27名

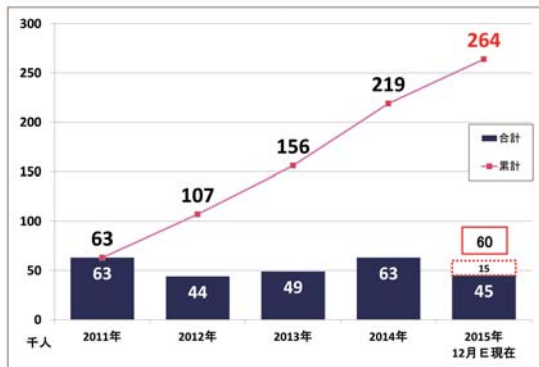
毎年恒例の日帰り入浴、昼食と観劇会に行ってきました。入浴は身体のリフレッシュ、昼食は海の幸で舌づつみ、観劇は目の保養と内外からエネルギーをもらいました。それより懐かしい人との語り合いで大いに親睦を深めて来ました。

報告 山本 孝義

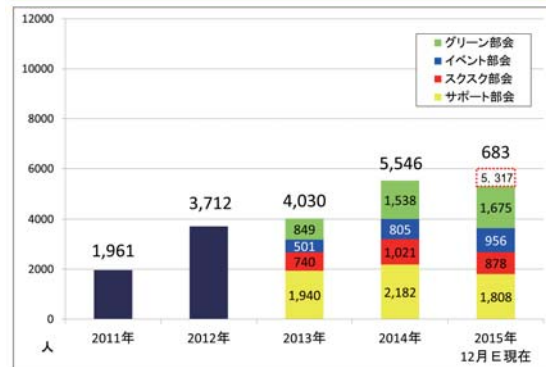
こまつの杜 OB ボランティア活動 2015年度 活動状況報告 (2015年1月～2015年12月)

コマツ栗津工場OB会 特定非営利活動法人 みどりのこまつスクスク会

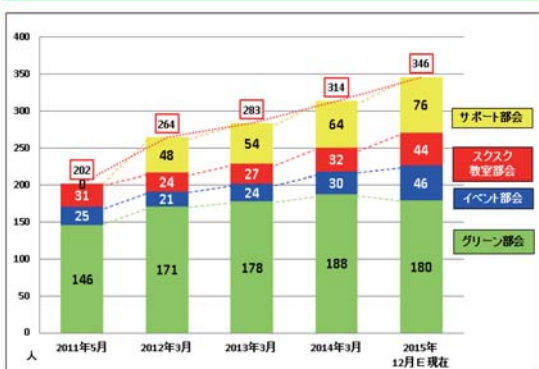
こまつの杜 来園者状況



OB会ボランティア参加者 累計人数



ボランティア4部会 登録人数



4 部会 活動

部会

1. スクスク教室部会
2. 里山イベント部会
3. 里山グリーン部会
4. こまつの杜サポート部会

部会長

石田 進
吉田 晋
大間 豊光
洲崎 利圭

1. スクスク教室部会 部会長：石田 進

理科教室開催50回記念

2011年6月にスタートした理科教室が、今年の10月で50回目を迎えました。(受講人数 延べ950名)



ふれあいワークショップ(春休み)

■ワークショップ 3月28日～4月4日

これまでの理科教材・作品などを展示して来館者にふれてさわって実感してもらい、親子で工作できるコーナーを設置。



理科教室(1月):マイカップを作ろう



理科教室(2月):空気砲を作って飛ばそう



理科教室(3月):金属は軟らかくて延びる



理科教室(4月):糸電話



理科教室(5月):魚が浮いたり沈んだり(浮沈子)



理科教室(6月):リニアモーターカーを作って走らせよう



ホバークラフトの原理



風に向かって走れウインドカー



秋祭り(小松とんとん祭り協賛)

10月11日 コマツ館2階にて工作教室・ビックリショー・他実施



砂鉄を採取して調べてみよう

講師: 堀本 理科教室 10月3・17日



小松市主催 こどもお仕事体験

講師: 湯浅 11月1日



2. 里山イベント部会 部会長: 吉田 晋



活動報告 カブトムシ観察チーム(4月~7月)

カブトムシ飼育観察



カブトムシと生きものの観察会 7/25



活動報告 きのこと里山観察チーム(4月~7月)

葉っぱの観察としおり作り(6/13) 参加者 15名



活動報告 水田・水辺環境改善チーム(4月~7月)

サツマイモの苗とヒマワリの種植え 5/14



ホタル誕生 ホタルの観察会



活動報告 むかしの遊びモノづくりチーム(3月~7月)

組ひも折り紙教室 (春休みイベント)
3/25 26 2日間で
延べ140名の大盛況!!

よく飛ぶ紙飛行機を作ろう 7/29
半日で
延べ40名の大盛況!!

春休みイベントとして、3/25 26にコマツ館にて組ひも折り紙教室を開催。
組ひものストラップ、折紙の手提げバッグ・玉手箱の作成を伝授。

今年で2回目になる紙飛行機イベント。
今年は自由参加で開催し、随時、測定会も行いました。
良く飛ぶ紙飛行機を造る子供もおり、前田チーム長の指示の元、一生懸命に折っていました!!

活動報告 田んぼづくりチーム(4月~7月)

【食育活動として】大和保育園 園児と共同で活動

木村まわし 田んぼえ 5/21 かかし作り 6/30 かかし設置 7/15

田んぼに入るのは気持ちいい? どうやって植えるの? がんばれー!!

大和保育園の園児たちが見学する中、木村まわしと田んぼえを行いました。
園児たちは興味津々で、たくさん質問をしていました。
時々歓声も上がり、目を輝かせていました。

6/30 かかしを初めて制作しました。木村に裏を巻き胴体をつくり、それから腹を着せて最後に顔を描きました。
7/15 田んぼにかかしを設置する際には大和保育園の園児たちが見学しました。

7. 活動報告 里山イベント部会 (4月~7月)

4/23 自主研修会(教養市 中池見 人と自然のふれあいの里) 20名参加

中池見湿地
・2012年にラムサール条約に登録
・市街地にほど近くまわりの山に囲まれた25haの湿地
・多様な環境に適応した動植物60種以上の絶滅危惧種を含む 3,000種が生息

湿地の中を散策

オリエンテーションにて
スタッフに中池見湿地の
説明を受け真剣に聞くOB

昔からの水田耕作によって
残った大小の水田や
水田水たまりなどがモザイク
状に組み合わさっている

活動報告【各チームの活動】(8月~)

①サツマイモの収穫 9/3 ④里山きのご教室 11/21

②ヒマワリの種取り 9/17 ヒマワリの種選別 11/3 ⑤竹垣作り 11/5 ⑥門松作り 12/15【予定】

③ホタルの勉強会・幼虫放流11/26 ⑦組ひも折り紙教室 3/31【予定】

こまつのだ生まれの
ホタルの幼虫を
放流しました

活動報告【食育】 大和保育園園児と共同で米づくり

①木村まわし&田んぼえ 5/21 ④脱穀 10/1

②かかし作り 6/30 かかし設置 7/15 ⑤もみ干し 10/3

③稲刈り 9/24 ⑥しめ縄作り(12/2)【予定】 ⑦餅作り(12/10)【予定】

⑧餅餅作成(12月下旬)【予定】

玄米にして78.5kg
のもち米が収穫

活動報告【地域との交流】

教養市「中池見人と自然のふれあいの里」自主研修会 20名参加 4/23

里まなび山あそび出張 10/12

木場崎キャンドルナイトウォーキング 18名参加 8/29

キャンドルを並べ火を灯し幻想的な風景を演出

夜々木代園士も
見学しました

活動報告【里山フェスティバル】(9/22)

子供たちが自然に親しみ楽しく遊び学んでもらえるようにと
第1回里山フェスティバルを開催

地図を見ながら里山のクイズに挑戦す「げんき里山クイズラリー」

げんき里山クイズラリーを運営するOB

かが森林組合からの間伐材を利用した木工工作

たくさんの子供が木工工作に夢中

木工工作の作品の数々

延べ460名の
大盛況

3. 里山グリーン部会 部会長：大間 豊光



活動報告 里山の清掃(3月～7月)



活動報告 花壇づくり および 花育活動(3月～5月)



活動報告 花壇づくり および 花育活動(5月～6月)



活動報告 花壇づくり および 花育活動(6月～7月)



活動報告【花育活動】



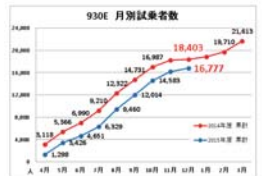
活動報告 園芸療法 レイズドベッドづくり



活動報告【園芸療法 レイズドベッド】



4. こまつの杜サポート部会 部会長：洲崎 利圭



5/2(土)わくわく建機祭り



8/1(土)わくわく夏祭り



イベント内容
 930E試乗
 ミニショベル操作体験
 おもちゃの金魚すくい
 水鉄砲射的
 ジャンボやばん玉作り
 水ロケット飛ばし
 げんき里山見学ツアー



来園者数: 1,617名
 930E試乗者数: 501名 ミニショベル試乗者数: 901名

10/11(日)わくわく秋祭り



秋祭りイベント内容
 930Eダンプトラック試乗
 ミニショベル操作体験
 ビックリ大実験 (スクス教室部会)

来園者数: 4,142名
 930E試乗者数: 505名 ミニショベル試乗者数: 795名
 ※930E午後の試乗は途中雨により試乗中止

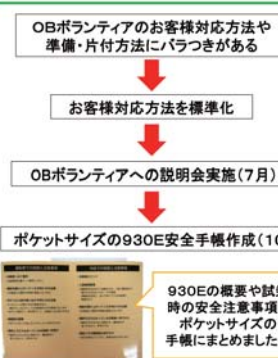
OG人形劇



◆今後の活動予定◆
わくわく紙芝居
 新テーマの取り入れを検討中
わくわく人形劇
 新テーマお披露目に向け準備中
 (来年度実施目標)



ポケットサイズの 930E安全手帳作成



お客様の声ご紹介

・ミニショベルにたくさん乗れ、また丁寧に教えて頂き子供達も大満足でした。ありがとうございました。
 滋賀県 30代女性

・930Eのガイドの皆様の説明が非常に分かりやすかったです!! さわたり写真も撮れてよかったです!! 福岡県 40代女性

・リタイヤされたOBの方々でしょうか。係りの方々が非常に親切で感謝です。これから頑張ってください。またこちら方面へ来るときは必ず伺います。有難うございました 奈良県 40代女性

・コマツのOBの方々が頑張っておられました。親切に教えていただきました。
 富山県 30代女性

感謝

2015年4月 竣工 (500㎡)



教室部会の概要

部長 石田 進
(上小松地区)



隣に「サイエンスヒルズ」が出来て、「こまつの杜」の「理科教室」が「ものづくり理科教室」と名前を変えながら、子供たちに興味を持たせ再訪を狙って、これまで運営してきました。

幸いにして、子供達や親たち、地域関係者、及びコマツの関係者も評価いただき、更なる発展に向けて、関心を寄せて戴いていると感じています。

今後も子供たちが、理系に興味をもち、大きく育つことを願い、教室部会員一同が心をひとつにして活動していきます。

これまでの5年間で築いてきた、その運営の概要を示します。

「ものづくり理科教室部会」の概要

1. 運営	1) 総会 : 毎年2月に全員の総会が開かれ、前年度の反省を含めこれからの年度方針と活動計画を決める。 2) 講師会 : 講師経験者及び講師候補者で年数回開かれ、開催内容の反省と今後の計画素案を検討、提案する。 3) これまでの活動実績 : ①「ものづくり理科教室」; 1回/月 (約2時間) ②「5年生の社会見学教室」; 約1回/月 (約40分) ③「出前教室」; 約1回/月 (約1~1.5時間) ④「イベント」; コマツの杜の行事、小松市の行事、等の参加 ⑤「幼児教室」; 園児のふしぎ発見教室、約1回/月 (約40分) ⑥「全国大会」; 東京での全国大会に参加、上記①の実施
2. 研修	1) 内容 : 教室部会員の参加で、国内の他組織の实地見学をして、会員の見識を高めること、及び、アイデアやテーマ発掘のために、年1回くらい実施している。 2) これまでの活動実績 : 北陸電力科学館、大阪市科学館、など
3. テーマが出来るまで	1) テーマの選定 : 講師になる人が中心に提案する 2) ストーリーの確立 : ①講師の素案作り ➡ 教室部会員で検討会を開く ②検討内容 ➡ 子供に理解しやすいか? 説明・実験・工作などの時間配分は? 説明時間は15分以内で、飽きない工夫をしながら、進行のこと。安全面は十分配慮されているか? ③準備会 ➡ 実験道具や工作物の製作と準備を数回開く ④リハーサル ➡ ストーリーの確認、教材準備物の確認、スタッフの役割確認、「KYTシート」で安全面を確認
4. 「ものづくり理科教室」の実施	1) 開始前のミーティング ➡ リハーサル時の確認の点検、その他特記事項の伝達 2) 教室実施 ➡ 事務局、講師、スタッフが連携して、楽しく教室を進める 子供や親から次回につなげるアンケートをお願いしている 3) 実施後の反省会 ➡ 良い点、改善点を意見交換し、次の教室に活かす
5. 次へのステップアップへ	1) 財産 : ①ストーリーのPPT ②教材 ③「KYTシート」 2) 課題 : ①教室部会員の確保 ➡ 理科好きで子供好きなOBの方 ②新規テーマの発掘 ➡ 常にテーマの改善が必須 ③運営方策の改善・改革 ➡ 親や子に興味のある進め方 3) 対応 : 上記の課題などを常に模索しながら運営・推進中です。

以上

こまつの杜 イベント部会活動

部会長 吉田 晋
(蓮代寺地区)



コマツの杜 里山面積2万㎡
まだまだ、ほんまもんの里山にはほど遠い里山です。そんな中で日夜ほんまもんの里山に近づけるべく努力しています。

子供たちが里山の自然に触れ合う手助けをしたり、子供たちに昔の遊びを教えてあげたり、そんなイベントを企画、立案、実施し体験しているOBの仲間です。OB自身も子供たちから元気を貰ったり、仲間との絆を深めたり、レベルを高めあったりしています。

3月で部会長を引き受けてから、丸一年になります。振り返ってみますと、平成27年度は「カブトムシ観察」「水田・水辺環境改善」「きのこ里山観察」

「昔の遊びモノ作り」「田んぼづくり」と5チーム編成で、新しいことや新しいイベントの挑戦をしながら簡単なワークシoppをして、チーム員ケンケンガクガク失敗を成功へと日夜頑張っています。又OBの中に隠れた名工が多くおられて勉強会を開いては、チーム員のレベルアップにつなげています。

こまつの杜の小川の環境もよくなり、カワニナが生息してホタルが育つ環境になってきたのは特筆すべきことだと思います。近い将来こまつの杜自前のホタルが誕生すると確信しています。田んぼの土も稲になじんで来て餅米精米も前年度は49kgだったものが69kgも収穫できました。ワークシoppの成果が出てきたものと思っています。

新しいイベントの挑戦では9月22日シルバークロウイクに里山フェスティバルを開催したところ460名もの人が来てくださいました。航空祭とかさなり県外からも多くの人を迎えることができました。平成28年度も予定に入れたと考えています。地域との交流も大事で「木場潟キャンドルナイト」の準備や

滝ヶ原での「里まなび山あそび」に参加して交流やこまつの杜のPRに努めています。3月12日には小松市の環境王国が開く「里山学会」もこまつの杜エントランスホールで開きます。

自己研修会では越前敦賀のラムサール条約中池見湿地を見学して、本物の自然を研修してきました。これからのこまつの杜を育てる上で学んだことを取り入れていきたいと思っています。平成28年度に向かつては新体制で、「水田・水辺環境改善」チームを二つに分けて「畑づくり」「ホタル飼育」の6チーム編成でイベントもいくつか増えることになりました。

今期はこまつの杜が出来てから5周年となります。まずは子供たちの目線と考え、部会員が楽しく活躍出来るように、そして5周年記念事業が出来たらいいなと思っています。イベント部会は5周年事業としてイベントのマニュアル化を全員で考えています。

“こまつの杜”
“イベント部会”
“ガンバルゾ”

里山グリーン部会

部会長 大間豊光
(上小松地区)



「こまつの杜」も開設して本年度は5年目に入る活動でした。この間コマツOBの皆さんのご協力をいただき誠にありがとうございます。お陰様でグリーン部会、2015年度180名の登録をいただきました。活動内容は、3月中旬から11月下旬までの里山清掃から始まり、花壇づくり(花育チーム)、レイズドベッド作りと新たなモノづくり活動をしてまいりました。このほか、わくわくコマツ館のイベントの支援活動にも参加しています。

(1) 里山の清掃
年間延べ1500名の参加をいただきました。従来通り男性16グループに分け、毎週火曜日、金曜日の当番で実施。午前8時

半から2時間通常1回20名グループと盛夏時は1回40名グループ体制でご協力をいただいております。又、希望者の方には、サマータイム制(午前7時から2時間)を取り入れて実施しています。

(2)花壇づくり、花育チーム
女性1グループと男性有志で、土づくり、種まき、鉢上げ、花壇づくり、水やりの花育チーム発足で、楽しくやっています。花育とは「花や緑に親しみ、育てる機会を通して、優しさや美しさを感じる気持ちを育むこと」又、小松市にモデル園の選定を依頼、上小松町こぼと第2保育園と島町白嶺幼稚園に決定し、年長組と体験指導を実施しました。

(3)レイズドベッドづくり
東京からの講師指導の下で、3役、幹事、グループ長の体制で4台製作し塗装仕上げまで実施した。うち2台はこまつの杜に設置、他2台は施設に寄贈し大変喜ばれています。以上来年度は、新役員体制で楽しい活動計画を立てていますので、今後ともOB皆様のご支援いただきますようお願い致します。

九三〇Eダンプトラック ボランティアに参加して

サポート部会

部会長 洲崎利圭

(稚松地区)



コマツの杜に入ると雄叫びを上げる大怪物が眼に飛び込んできます。全ての観る人が驚嘆する、それが九三〇E大型ダンプトラックです。本年度も二万人を超える方が、このダンプに試乗されます。県外そして外国の方も増えています。

ダンプの運転席から見る白山は実に雄大、特に真っ白い雪を冠った偉容は本当に素晴らしいロケーションです。大きなダンプに乗って白山を駆け上りたい気持ちにさせます。

又、コマツの杜の地は弥生時代に愛知県の朝日遺跡に次いで

全国で二番目の大集落が在った処といわれており、一入感慨深いものがあります。

サポート部会に参加し九三〇Eと付き合うようになり約四年になりますが、発足当時は三名の会員だったと聞きます。現在は倍以上の、七六名の登録を戴いておりますが、さらに多くの方に参加して戴きたいと思っています。

只今ダンプは独身です。早く花嫁が傍にいる状況を作れたらと思います。鉦山と一緒に働いた大型パワーショベルが花嫁です。一日も早く結婚式を挙げたいものです。いまどきの少子化でなく、沢山の子供たちを生んで周りを小さなブル達が行き回っている。又、来場の幼児達が現在のミニ建機試乗のように小さなブル達に乗って歓声を上げています。そんな光景が浮かんできます。

コマツの杜があつてOB会員やコマツ館スタッフの皆さんとの友情や信頼が深まっています。今まで面識の無かったOB会員とも直ぐ打ち解けて交流できるそんなコマツの杜に感謝してボランティア活動を続けたいもの

です。活動に行くと思うだけで元気を貰えます。又、来場者と触れ合うことで大事な思いやりの心も養われます。少しでも社会に貢献できるように、元気で明るく楽しい日々のために、今日もコマツの杜へ行くぞ！



死に方上手

矢田野地区 松田靖雄



お墓は本当に必要か？

「手元供養」というものがある。遺骨をオブジェにしたり、アクセサリーに加工して、常に手元においておくというものだ。

これはロマンチックな話ですよね。人間って、親とか好きな人のDNAに関するものを持ちたいという気持ちはどこかにあると思う。

遺骨を入れるペンダントをエタープルペンダントというんだそうです。これを身につけていたら悪いことが出来ないと。でもこのペンダントが格好悪い。まだ古い。人間には「忘れる」という機能がある。死んだとたんに忘れるのは、いくらなんでも薄情だけど、辛い部分は少しずつ忘れて、早く立ち直って、故人のことは年に何回か思い出して供養

すればいい。そのためにお盆とかお彼岸がある気がする。

どっちにしても墓とか葬儀ってマジメなんだ。バーンとはじける感じもない、そこが面白くない。そこで思いついたのが、どうせ海に骨を撒くなら、海上で花火と一緒に骨を打ち上げる「花火葬」ってどうかね。海上花火大会って、全国で結構多いでしょう。あの中に交ぜてやらせて貰う。バーンとしていると思う。

「ただ今打ち上げられましたのは○×△様の花火葬でございます。す、花火の形も○×△」なんて文字にして、遠くからでも○×△が死んだってことが分つていいんじゃない。となると三文字だから三発打ち上げて、ますます三骨の散骨だと思う。

死んだらどうせ無になり、空になる人間らしい最期だと思う。花火を打ち上げた後、子供・孫たちに「おじいちゃんやんは花火になったんだよ」なんて格好いいと思うし、遺族の心に永遠にその花火の映像は刻まれると思う。“ピンピン、コロリ”という言葉がある。年をとってもピンピン長生きをして、病気になるったり、寝ついたりせず、ある日突然コロリ

と逝ってしまう死に方のことだ。家族に介護などの負担をかけることもないから、そういう死に方が理想的と考える人が多いそうだ。長野県佐久市の“ピンコロ地蔵”をはじめとして、全国各地にはピンピンコロリを祈願する場所も人気のスポットなんだとか。“確かにピンコロ”と聞くと耳障りはポップで明るい、でもピンコロが実際にはどんな死にざまなのか考えたことはあるだろうか？

百歳を越えてピンピンの現役医者日野原重明氏が、あるコラムで解説していたが、ピンコロにもっとも近い死に方は、心筋梗塞などの心臓疾患による突然死なのだそうです。

ピンコロ突然死、いや、そりやそうなんだろうと漠然と思っただけで、実際に現実を突き付けられると動揺してしまう。そうか、ピンコロって突然死なんだよね。でもこのことをピンコロ希望者は、本当に理解しているのだろうか。確かに、突然死んじゃないわけだから、家族に介護などの迷惑をかけることはない。でも突然死ですよ。二日でも三日でも危険になり危ない状態が続けば、親類縁者も病床に集まる訳じゃない。

そこで最後のお別れの時間もあるし、死に水をとってあげたりすることも出来る。ところがピンコロじゃそれも出来ない。

「死ぬ前にもう一度会いたかった」そんな知り合いが、ピンコロでは必ず一人は出て来る。その一人にして見れば「何でピンコロなんだ」と突然恨むに違いない。それでもピンコロ死がいいのだろうか？もつともピンコロに近い死に方が出来るという心筋梗塞なんかは、喫煙や高血圧・肥満・運動不足・暴飲暴食をしている人がリスクが高まる訳じゃない。極端に言えば、自堕落や運動不足・暴飲暴食をしている人がなりやすいってことです。

ところが、実際にピンコロ地蔵に足を運んでピンコロを願っているような人に、そんな人は少ないと思う。ピンコロ地蔵にお参りするような人は、健康に気を遣い、食事や生活も規則正しい日常生活を送っている人が多いんじゃないですか？ピンコロ志願者ほど、実際にはピンコロからどんなにか離れて行くのが現実ってことです。

人生ってやっぱり皮肉なもの、うまいこと行かないですね。

海外現地生産の

こと（その5）

国府地区 西尾皓史



会誌三十三号〜三十六号にも掲載させて頂いた通り、一九八五年〜一九八八年にかけて、「米国コマツ製造株式会社」(KAMC)の立ち上げに当って、現地生産のフィジビリティスタデーに始まり、工場建屋取得・改修、生産設備の計画・導入、現地従業員の採用と教育、日本からのコンポ輸入、部品の現地調達等々の現地生産の準備を進めてきたが、生産開始の時点で、現地駐在員十二名、長期出張応援者、五十名超が現地に張り付いて頑張っておりました。環境や文化の異なる、米国のテネシー州における、現地駐在員、長期出張応援者の生活について、少し触れてみたい。

一・言語の問題

現地で生産を立ち上げるに当たっては、建屋・施設・設備の導入、従業員の採用・教育等の準備段階を経て、本格的な生産活動を開始することになるが、この際、最も重要で、厄介な問題は、言語の問題である。

中学校、高等学校で英語を習ったとは言え、社会人になってコマツに勤務し、日本の生産工場で働いている者にとっては特別なことがない限り、英語を使う必要もなく、そんなチャンスも与えられない。戸惑うのも当然なことであるが、そんな中で、殆どの者はチャタヌーガへの長期出張が決まってから猛烈に英会話の勉強を開始し、ある程度の自身をもつて赴任し、また現地に赴任後も、夜の時間を英会話の勉強に費やす者も少なくはなかった。

現場では、ワーカーと、部品や設備を前にして、手真似・足真似で会話をするとところから始まり、話を通じ始めると、これが自信となつて、積極的に現場に溶け込もうと努力をし、その結果、非常に短期間で、仕事上でのコミュニケーションができる

るようになっていった。

そして、何年来の知己であつたかの如く、休日には、現地の従業員のデイナーに招待される者も多くなつていった。生産現場での“ものづくり”は、世界何処へ行つても共通のものである。部品・設備を前にしている限り、カタコトでも、手真似、足真似でも正確にコミュニケーションすることが出来る、と言うことを改めて確認することが出来た。

また、Kマート、アジアンフード、レッドフード等のスーパーマーケットへは、毎日の食料の買い出しに行つたが、チャタヌーガにはコマツ以外の外国企業がなく、また日本人も他にいないので、ある意味では大変注目されたし、興味をもつて接近してたどたどしい日本語で喋りかけてくる現地の人も多かった。

特に、当時のMa工師長（栗津工場出身）、Mi工師長（コマツメック出身）の二人は、長期出張応援者にとつては、現地での日常生活の上でリーダー的存在であり、また、現地スーパーマーケットでは、大変な人気者で、「のりさん」「みやさん」と

親しみをもつて呼ばれていた。

彼らが人気あつたのは、大声で、恥ずかしがらず、カタコトの英語で、現地人に質問し、どうしても通じない時は、手を引っ張つて連れていって現物を指差して、”What is this?” 或はまた、”This is?” となべ”と強引に日本語を教えようとする、と言う具合に、楽しくて陽気な日本人だつたからであらうと思われる。

二・食事の問題

駐在員が十二名いたが、赴任当初は殆どが単身赴任であり、それぞれマンションを借りて一人での生活を始めた。また、応援者は、”ホワイトホール”と言うマンションの大部分を借り切つてそこに入つた。

一人で生活する以上は、掃除、洗濯、食事、風呂等全て自分の甲斐性でやらなければいけないが、その中で最も厄介なのは食事である。

日本の様に、おでんや、焼き鳥や、一膳飯屋、日本食レストラン等、気軽に立ち寄るところもないので外食に頼るわけには

いけない。やはり、自分で腕をふるい、自炊をしてバランスの良い食事をとることが大事なことである。

チャタヌーガには、その当時、日本料理店といわれるお店は、“ベニハナスタイル”の“KANPAI OF TOKYO”と言う、ステーキハウスがたった一軒あるに過ぎず、二日も三日も続けて行くと飽きてしまうので、食事代も馬鹿にはならないので、やはり、自炊をするのが最も賢いやり方であった。

沢山いる駐在員、応援者の中では、料理を趣味にしている者を見つけ出すことは、そんなに難しいことではなかった。料理通と食通の双方の人がいるからこそ、食事が楽しく、味わい深いものになる。料理通と称する者の手ほどきを受けて、それぞれが自炊のやり方を覚え、これで、単身赴任の生活が落ち着くかに思えたが、そんなにスムーズには行かなかった。

応援者にとっては、生産立ち上げの忙しい時期だったので帰りも遅くなり、メニューが偏って単純になり始めたし、食事の後始末をするのも面倒になっ

てきたようだった。

ある応援者の言うことには、「日曜日に、肉じゃがを沢山作り、月、火は、それを食べる。水曜日に、カレーライスをおち込んで、カレーライスとして、水、木、金、をつなぐ。土曜日は、“KANPAI OF TOKYO”に行つて、ステーキでも食べるか。」と。

誠に、寂しい限りであり、日本に残してきた奥さんが知れば、飛んでくるかもしれない。

ただ、日本食の材料は、殆ど何でもチャタヌーガで手に入つたし、驚くほど安かった。野菜、果物、肉は当然のこと、米、餅米、刺身、豆腐、醤油、みそ、カップラーメン、おでんのもと、釜飯のもと、うめぼし、ふりかけ、のり、昆布、日本酒など、何も不自由するものはなかったが、欲を言えば、新鮮な刺身、新鮮なネタのお寿司が食べたいな、と感じたことがよくあった。

そんな時は、金曜日の業後、何人かでグループを作り、アトラクタへ車を飛ばしたものだつた。お寿司やさんで、たらふくお寿司を食べ、日本酒を充分エンジョイして、アトラクタの

ホテル（一泊、三十ドル）に泊まる。翌日は、近くのゴルフ場でゴルフを楽しんで、チャタヌーガに帰り、夜は、O社長宅で、しゃぶしゃぶ、テンプラ、おでん、等で大反省会をやる、と言つた、週末の行動パターンも、ひとつの行事のように定着化していった。

応援者に関しては、三ヶ月、六ヶ月ごとにメンバーが少しずつ入れ替わり、自炊を続けるのも負担に感ずる者も増えてきたので、一九九七年の三月から、“ホワイトホール”へ、食事の賄い婦に来て頂くことになった。

勿論、日本人だが、戦後、日本からチャタヌーガに渡つてきた方で「エイコサン」と言う名で呼ばれ、みんなから大きな期待を持って迎えられたのだが、始めの内は味があわず、評判は“イマイチ”だった。しかし、料理通の人のご指導宜しきを得て、うなぎ上りに評判はよくなつて行き、ようやく応援者の夕食も確保されることとなり、生活パターンも安定して来た。

駐在員も時々招待されてホワイトホールでの楽しくにぎやかなディナーパーティに参加し、

時を忘れて話に夢中になったこと等は、今も鮮明に覚えている。

米国現地生産には、調査・準備段階から参加させていただき、生産立ち上げの段階では多くの仲間と一緒に汗を流し、米国国産第一号機のラインアウトを見守つた時に味わつた大きな感激を今一度思い出しつつ、この原稿の執筆を終わりにしたいと思います。



白山山系

中川の泥水

辰口地区 片山誠孝



いつの時代だったか、働コマツ労働組合で組合員を対象にしたハイキングがあった。

白山の山深く入った岩間道より中川までの距離だった。岩間噴泉塔を見物した。

平成二十七年五月TVを見ていた人も居ただろうが五月二十二日（金曜日）浅間山が噴煙を上げたとのこと。手取川の支流が隘にはあった。TVは箱根峠大噴火。乗鞍岳の噴火が雪崩の残酷さを出そうとしているのでしよう。

我々の里人の中に居た根上町に住む人は泥水の惨状を口癖にしていた。

中川の山はだは汚水が熱い

が良く流れていた。

下って内尾山系の山水が汚っているのが最初の手取川の泥水の原因だと思っていた。

岩走る垂水の上のさわらびのもえ出づる

春になりにつけるかも

万葉集

春過ぎて夏きにけらし白たえの

衣乾したり天の香久山

万葉集

あおによし奈良の都は咲く花の

にほうがごとく

今さかりなり

万葉集

山昇りの好きな私は右の様な万葉集の歌を思いだされるのです。

それは極上の歌だからです。中川の水の汚れが一日も早くおさまることを願っています。

全国交換大会に

参加して

符津地区 宮越信夫



私がグラウンドゴルフを始めから早くも二十年になろうとしています。

その間プレー人口や各種大会も急速に増加し、平成二十七年九月十九日から二日間、和歌山県すさみ町で行われる第七十回国民体育大会の公開競技に初めて採用され、今後ますます発展するものと期待されています。

こうした中、図らずとも第二十回全国グラウンドゴルフ交換大会に参加の機会を得て、九月四日～五日の二日間、山形県天童市に行きました。片道九時間の長旅、雨の止む間もなく、隣人と話す位でしたが、それでも大会参加に希望燃えながら天童ホテルに到着しました。

大会当日の山形県総合運動場は、天気恵まれて、千七百二十八名の参加者全員で喜びと感動の二日間でした。

先ず驚いた事は会場の広さでした。入口中央広場の左には開会式のあったアリーナ（小松ドーム位の広さ）、右には観覧席付きの陸上競技場（小松陸上競技場位）、その右には四百メートルのトラックを持ったサブグラウンド場、その北側には観覧席付き野球場、駐車場、運動広場（プロ野球楽天のサブグラウンド場）。その左側には六面のサッカー場、憩いの広場や憩いの森等、各種運動を備えた大きな敷地に感嘆した。

更に驚いたのは、正面入口の道路を隔てた反対側に百五十平方メートルの駐車場、十面のサッカー練習場が一箇所に集約されており、私達の参加したグラウンドゴルフの八ホール×十二面は全体の十分の一位を使っただけの広さに感動しました。競技は開会式の後、午前八ホールのみ、午後八ホールと一日掛けて十六ホールの交換試合には、石川県で育った三十二ホールプレーしか知らない私達には理解

しがたい寂しさを感じました。

翌日の交流大会も八ホールのみで、閉会式となると矢張り、石川流の三十二ホールが懐かしく思えた反面、十六ホールや二十四ホール制になると集中力が必要になり、グラウンドの技術向上が必要になると思われた。

こうした中、私事ながら交換大会にはホーインワンによる記念認定証、二日目の交流大会には六人チームの一位による記念品を貰えたのは幸運だったとは言え、印象に残る大会参加でした。

何時でも、何処でも、誰でも手軽に楽しめるグラウンドゴルフは、昭和五十七年に誕生した、「より身近な楽しい生涯スポーツ」として幅広い年齢層に親しまれ、エチケット、マナーを重視するスポーツとして今後とも皆さんと一緒に楽しみたいと思いました。

(平成二十七年九月十三日記)

知覧にて不戦を誓う

東陵地区 山 勝三



わが国が惹き起こした先のいまわしい第二次世界大戦(太平洋戦争)は、最後に東京、大阪をはじめ主要都市への大空襲、沖縄玉砕戦、広島、長崎への原爆投下と続いた。そしてわが国民の多大の犠牲と対戦国への膨大な被害をもたらし、昭和二十年八月十五日、ついに連合軍に無条件降伏。ようやく終戦を迎えた。

爾来七十年、世界のあちこちで戦火が飛び交う中、この国では戦争や紛争とは無縁で、国民は平和な日々を享受して来たが、これが永遠に続く保証は何も無い。先の大戦を惹き起こした国の一員としての責任を果たすためにも、われわれは戦争の悲惨

さ、無謀さ、冷酷さを、次の世代に語り継いで、ひとり一人が世界平和に貢献して行かなければならない。

中でも、忘れてならないのがこの沖縄戦線で、本土決戦を阻止すべく爆弾を懷に抱えて玉砕した、千名余の特攻隊員のことだ。そのほとんどが優秀な幹部候補生で、前途有望な十代後半の若者ばかりだった。

人類史上類の無い爆装した飛行機もろとも、敵艦に体当たりし、国土を守ろうとした特攻隊員。もはや狂ったとしかいいようのない大本営の、そのやり方の無謀さ、非道さ、はさておき、祖国のために若い命を投げ打った彼らの存在を、我々は決して無駄にせず、永遠に忘れてはならない。

*

昨年の六月はじめ、屋久島での登山の帰り、鹿児島市から車で一時間。薩南の知覧の地を訪れた。目的は知覧特攻平和会館。ご存知の通り知覧は、終戦直前、陸軍飛行隊の基地となり、錦江湾を挟んで並ぶ隣の海軍基地の鹿屋と共に、特攻基地のあったところとして有名だ。ここに当

時の特攻関係の貴重な資料が公開されている。

南国らしい雷鳴が轟き、雨が激しく降り注ぐ中、旧飛行場の一面に建てられた特攻会館に到着した。館内に入る。いきなり目に飛び込んで来たのは、特攻隊員四百名余の遺影と、父母兄弟にしたためた遺書が、ずらりと並べられたパネル。九十九パーセント帰ることのない出撃の前日に、彼らの胸を熱くよぎったものは何か。一人一人の若々しい遺影と対面し、その前に添えられた自筆の遺書を読んでいくうちに、涙線が弛み、視界がぼーっと霞んでいくのを押さえ切れなかった。

*

話は変わるが、一昨年暮れ、何気なくインターネットのU・チューブで、さだまさしのアルバムをクリックすると、日本中の誰もが知っているクリスマススの定番曲「きよしこの夜」をバックにして、「拝啓、母上様……」で始まる特攻隊員の遺書が次々と朗読されていた。終戦直前の昭和二十年の初夏、この鹿児島・知覧の特攻基地から、南方戦線に出撃する若者達の、父

母や兄弟にあてた遺書の朗読と「きよしこの夜」のメロデーの、際立った戦争と平和のシンボル同士の取り合わせの妙に、思わず手を置いて聞き入った。中でも一特攻隊員の、野原を自由に飛びまわる小鳥を見て「生まれ変わったら鳥になりたい」とのくだりでは、その時のやるせない心境を慮り、不覚にも涙した。

＊

その時、朗読されていた遺書が、六ヶ月後の今、書き手の遺影とともにズラリと目の前に並べられている。他にも同様の内容の遺書が、隣のコーナーにも、向かいのコーナーにも。ところ狭しと……。お国のために死に行く若者らしい純粹さと、興奮を抑えきれない、すこし緊張した文調が、なんとも切ない。

昨年来、わが国全体が、今後のあるべき安全保障体制の問題で揺れている。隣の大国、中国の覇権主義、北朝鮮の核問題、中東における動乱、ロシアや韓国^のの不当な言動。平和に関する我が国を取り巻く状況は、憂慮すべき状態にある。

かかる時、あらためて我が国民全員が、この特攻隊員のパネ

ルの前で、不戦を誓い、未来永久の平和を実現するため、率先して行動することを誓ってはどうか。

＊

我が国の平和の礎として南方戦線に散った若者たちに捧げる

知覧特攻平和会館にて

かもめ翔ぶお前は何処に向うのか
南方の空は健気に今日も晴れ
群青の海清らかに我を待つ
父母にお国のためと胸を張り
拝啓母上様ペンに乱れのない覚悟
少年の気負いが躍る遺書の文字
精神を透明にして明日を待つ
帰らない機影が今日も南指し
突撃に浮かぶ脳裏の父母優し
ああ 戦^{いくさ} なぜにこうまで
人は無知



駅伝 その二

寺井地区 本多政明



前号に続いて駅伝その二を投稿させて頂きます。平成二十七年は昭和九十年です。今年の第九十一回東京・箱根間往復大学駅伝(通称箱根駅伝)は現在举行されている国内に於ける駅伝では我が国最古の伝統ある大会です。東京大手町から神奈川県箱根町の往復路共五区間(一〇七・五km、一〇九・六km、合計二一七・一km)十区間で十人の選手達が走る。今年は若干のコース変更があり昨年より八〇〇m短い距離でした。合計タイムはこれまでの最短で一〇時間四九分二七秒で青山学院大学が初優勝でした。しかも史上初めて一〇時間五〇分を切りましたとの事。

私は今回駅伝の言葉(語)の由来を調べて見ました。大化の改新(六四五年)に制定された情報

伝達制度の「駅馬と伝馬」からで駅で馬を乗り継ぎ、情報を中央から地方に伝達すると言う制度だとの事。尚駅の元の字は「驛」で馬を繹(継ぐ)場所との事。

次に「駅伝の始まり」について一九一七年(大正六年)四月二七日に東京府が開催した「奠都五十年記念東京平和博覧会」の協賛行事として読売新聞社が主催した「東海道駅伝競走」が始まりであるとの事。京都三条大橋から東京上野不忍池間一二七里(五〇八km)を二三区間に分けて四月二七日から三日間昼夜兼行で走った東西対抗大会で優勝チームは東軍で四月二九日午前一一時半に四一時間四四分でゴール、ちなみに西軍は一時間二四分遅れでゴールイン。

尚三条大橋スタートは五〇年前の明治天皇御発輦の時刻に合わせて四月二七日午後二時に出発されたとの事です。

【参考文献】

検証二十世紀(一九九九年四月二十八日 日本初の駅伝レース)

世界大百科辞典
スポーツ大辞典

北陸中日新聞(平成二十七年一月三日・四日号)

折り紙飛行機作り

雑感

国府地区 山本孝義



今年もコマツの杜里山イベント部会昔の遊びチームで、折り紙飛行機作りをして飛行距離を競い合いました。当日の開始時間は九時三十分にも関わらずチーム員は八時過ぎには集合し会場作りや紙飛行機作りの予習に余念がありませんでした。

何故かと言うと、前回の反省を踏まえ、子供達の要望から「格好良くて、飛ぶ飛行機」を作ることに決めたからです。もう一点は、今回から募集方法を変えました。従来コマツの杜で開催する各種イベントは、事前に案内書を小松市内の各小学校に送付し事前に応募者を募っていたが事務の簡素化から、今回は事

前のイベント案内のみで、事前申し込みなしのフリー参加方式に変更しました。そのため参加人員が多いのか少ないのか、少ない時は問題ないが、多い時はどう対処すべきか、二重の心配があったからです。

飛行機作りの方は、オリジナルの自称ファントム戦闘機を折ることに決め、事前に二回の特訓で、飛行機を折り上げる手順は覚えたが、飾り物ならばこれで良いのですが、飛ぶ飛行機となると左右のバランス、重心の位置、揚力等を考慮しながら正確に左右対称に折り上げる技術が大変なため、時間があれば常に飛ぶ飛行機作りに向け工夫が必要でした。メンバーの中には、独自のゲージや測定具を考案し指導方法をマニュアル化している人もいました。後日談ですが、大半のチーム員は飛ばす工夫するため、新聞広告で作った紙飛行が家中至る所に有り、家族のひんしゆくを買ったとの事、陰で努力するメンバーの心意気が窺える一面である。

メンバーの心配事に関係なく、定刻の九時三十分前に次々と子供達が父兄同伴や友達と一

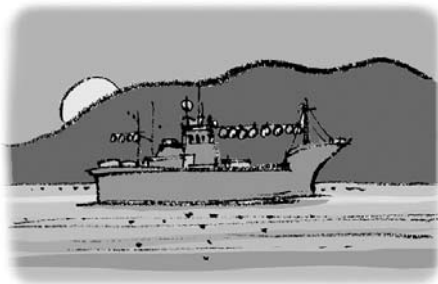
緒に会場に入ってくる。準備したテーブル六箇所は即満杯、出来上がった子供から、即競技会場に行つて飛行距離の測定をして貰う。今回から飛行距離の認定書を発行し三回トライの内一番飛んだ距離を認定書に記入する方法を採用し、全体表彰式は省略しました。

今回一番飛んだ飛行距離は十五メートルでした。予定していた時間を三十分も延長し、子供達とワイワイ、ガヤガヤと夏休みの楽しいひと時を過ごす事が出来ました。今回は四十五名の参加者がありました。遠くは福井県からドライブに来られ、家族揃つて参加された親子も居られ、こまつの杜を楽しんで行かれました。毎回の事ですが、今回も子供達から沢山の元氣や夢を貰いました。その一例を紹介させて頂きます。

今回の折り紙飛行機作りもそうですが、出来上がった飛行機を飛ばして飛行距離を競う大会ですから、滞空時間が長くても距離が短いと上位入賞は出来ません。今回も上位に入った子供はさすがに違う、指導中から真直ぐ飛ばすには、何処に気を

付けて折り紙を折るのか色々聞いて、メモを取っている。そして一枚の紙を何回も何回も折り込み、紙をクシャクシャにしながら自分の納得する迄何処が違うのか聞きに来る、そして自分なりに最強の折り紙飛行機を作り上げる頑張りには頭が下がる。又一方飛ばなくても、ファントム戦闘機が出来ただけで喜ぶ子供や父兄の顔見るだけでも楽しい。

今回も子供達から沢山の夢や元氣を貰いました。コマツの杜っていいね!!



「故郷は今」

矢田野地区 松田靖雄



昭和四十三年秋、一つの村が消えようとしていた。児童数の減少による小中学校の廃校は、人々にとって挙家離村を意味するものであった。後に続く市役所出張所・診療所・農協等の撤退は村組織を形骸化とし、小松市市街地、近隣の町村への人々の流出となつて行つた。

かつて生活の場を失い、拠を無くした人々が新しい町で子育てを終え、人生の峠を越えた後にくる余裕なのかどうか。

山へ戻り、好きな山仕事や山歩きをして、自由に余生を送っている姿に、生きている人間のより強い生活力を感じる。

自力、他力に拘らず、生まれた土地を離れることの寂寥感は、日本人特有のものであろうが、

この故郷意識によって、私達の生活は支えられ生きる原動力に繋がってくるものである。

時は流れ、人は移ろい、山も村も畑も変わり行く。変わらないうのは自然の懐の温かさと大らかさ、そして厳しさ。村も町も人の変り様によって常に滞ることを知らず過ぎて行く。

小さな山の村の大きな人間の歴史、いつか又見捨てられた山の生活が、新たな意味を持つて人々に問いかけて来る時がやってくるに違いない。

産業の中心が農業であつた頃は、平野でなく山の中でも、水が引ける所は田んぼにし、鋤で起こせる所は畑にして、老人は老人なりに、壮年は壮年なりに、子供は子供なりに、それぞれ働いて、体を寄せ合つて暮らしていた。

新しい場所での生活が、経済的にも安定していても、何となく心が落ち着かないで、一時でも住み慣れた村に戻つて暮らして、心身の健康を取り返すこともある。

曲りくねった小路の向こうに見える木葉葺屋根の家、赤い実をたわわに付けた大きな柿の

木。子供の頃に遊んだ村中の大日川など、どれ一つとっても懐かしく私達の心を過去に引き戻し、大きく包み込んでくれる。そこでは何の気兼ねもいらない、ただ子供の頃の心をそのまま開けばいい。

父や母が、そして多くの幼い友や路傍の草花や小川までが、優しく暖かく昔のままの姿で受け止めてくれる。

それが「故郷」であり故郷という言葉ほど懐かしく暖かい言葉はない。

そんな故郷が、便利さを追い求め、時には開発の名のもとに、一つ又一つと消えて行く。開発は私達に多くの便利さと、時には豊かさも与えてくれるが、その代償に心の拠りどころも消し去って行く。

そんな淋しさに耐えかねて故郷へ戻ってくる人もいるが、多くの故郷は最早心の故郷でなくなっている。

この地に生まれ、土を守り、山を守り、ひたすら生きて来た一山村のことや昔の村のことなど、晩秋の山村ならどこでも見られた日だまりで、長い冬に備えての薪切り。いつか村人が戻

つて来るのを待つかのように、柿の木だけが、くる年もくる年も赤く実をつけながら寂しげに見つめている。

鎮守様の石段の修理・村有林の作業・学校の仕事など全て共同作業。男でも女でもいい、一戸必ず一人は出るようになってくる。皆なそれぞれの道具を持って年何回もあり、共同体は生きて来た。

いつまでも心の中に「ふるさと」を持ち続けて行きたいと考えている。



米寿祝い記念品贈呈

に思う

寺井地区 前田昭則



毎年小松栗津工場OB会は、満88歳を迎えられた方達へ米寿祝として記念品を贈呈しております。対象者も毎年減少していますが、今年も対象者が25名居られます。4役と各地区理事で分担し、それぞれの地域の対象者を訪問しお渡ししています。

私の担当地域では、昨年と同様今年も4名の方が居られます。毎回の事ですが、事前に訪問日時を連絡してからお伺いし、長寿のお祝いを述べ、記念品お渡し記念写真を撮らして頂き帰るのですが、米寿を迎えた大方の家族の方は、背広にネクタイ姿で対応して頂き大変恐縮する事が多い。また折角来て頂いたの

で家にながって色々話を聞かせて欲しいと要望され、長居する事も多々有ります。高齢でもあり、地区OB会行事に参加される事も少なく、寂しいのか、何かと話しかけて来られる。特に自分が元働いていた職場は、今どう変わっているのか、一緒に働いていた仲間の消息はご存じないか等、話は尽きない。又会報や会誌、会員名簿を持ち出してきて、昔を懐かしんでいると話される。最近では仕事や趣味に凝っている等、近況を細々と話される。

こちらもありづちを打ちながら会社の現況や「こまつの杜」でのOB会メンバーの活躍やボランティア活動の状況を伝えると、そうかそうかと言って、コマツに勤めていて良かった、仕事は厳しかったが、退職金も沢山頂き、定年後は年金も頂きコマツのお蔭と感謝しています。又この歳になつて記念品まで頂き、在所の人からコマツの会社は面倒見の良い会社やと言われると、鼻高だかで自慢したくなると言われ、こちらまで嬉しくなりました。お茶を頂き、ご夫婦健康で長生きして下さいと挨拶して帰ろうとすると、大概の奥さんから、私にも一言お礼を言わせて下さいと言われます。幾つかの例を紹介します。

家のお父さんは、昭和28年に小松工場に入社し、朝の早い内から夜の遅くまで、家や子供の面倒も見ず、入社2ヶ月目から出張、出張と家を空けるばかりで仕事一筋、がむしゃらで勤めて来ました。お蔭で病気一つせず定年を迎えられました。定年後、お父さんに無理を言つて、退職金で隠居部屋を建て貰いました。今は、何よりも嬉しいのは孫とこの部屋で過ごすのが一番の幸せです。今日楽しく幸せな日々を送れるのもコマツに勤めていたお蔭ですと、お礼を言われ、返答に窮し、これからも夫婦仲良く健康で長生きして下さいと、答えるしかありません。

もう一例紹介しますと、時間前にお伺いしたにも関わらず、家族一同で出迎えを受け、奥さんからお父さん耳が少し遠いから私が通訳しますと言われる、記念品をお渡しし、近況をお尋ねすると、足腰は弱ったけれども身体は達者で、毎日自分の好きな一刀彫に頑張っているとの事。

玄関前の飾り衝立、居間に並んで飾つてある七福人の一刀彫など見事な作品ばかりである。奥さん曰く、定年後は、居間の横を作業場に改造して、趣味の一刀彫に明け暮れているとの事、横の仕事場を覗いてみると。干支の十二支が、大小ずらりと並んでいる。一刀彫の技能は、定年後習得されたのですかと聞くと、木型工場に勤務していた時、覚えたとの事。今日現在大病もせず毎日コツコツと趣味に打ち込めるのも、コマツに勤務していたお蔭です。足をコマツに向けて寝る事は出来ませんと、奥さんの感謝の言葉でした。

その他、独り身の方でも、お伺いし、記念品をお渡しすると、仏壇の戸を開け近況を語られるなど、さすがコマツのOBと頭が下がる。私自身いまさらながら、コマツに勤務して良かった。先輩OBの皆さんありがとう。



戦後七〇年と

安保法制

美川・川北地区 平野松雄



昨年は先の大戦後七十年の節目であり、全国で戦没者に対する慰霊式等が全国各地で行われました。

先の大戦で亡くなられた三百十万人を超える犠牲者の遺族にとっては忘れることのできない虚しく、また悲惨な戦争はありません。七十年も過ぎると、とかく風化してゆく現状はどうしようもない現実でしょうか。毎年、六月から七月にかけて、各市町村や、石川県で戦没者慰霊式が執り行われます。

丁度この時期、国会では「安全保障法制関連法案」が審議され、賛成、反対で国を二分する大問題が発生したことは、まだ、記憶に新しいことだと思います。

政府が解釈変更により「憲法第九条に違反しない」と説明。

憲法第九条とはまず一つ目「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を希求し、国権の発動たる戦争と、武力による行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」次に二つ目「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない」とハッキリ規定されている。

しかし、政府は解釈の勝手な変更で、憲法違反に当たらないと言い張る。国民をバカにした行動であり、いつか、もし有事が起これば「自衛隊は即座に戦場に行かなければならない」戦場での後方支援とか言っているが、有事になれば必ずそれに伴う犠牲者が発生することでしょう。戦没者の遺児としては、また、悲しく悲惨な犠牲者が出て、国民全員が許すことのできない事態になることは必定である。国会は、議員の多数決で決まるのは当然であるが、国民から選ばれたのであることを忘れ、党利党略のためか、また国民の民意を無視した強硬採決には日本

の将来に大きな禍根を残すことになったと言えるでしょう。

安全保障関連法案が衆参両院で可決された。この中に集団的自衛権の行使容認がある。「集団的自衛権」とは何か？「自国と密接な国が武力攻撃された際、自国が攻撃されなくとも実力をもって阻止する権利」のことを言います。自国と密接な関係の国とはどこか「アメリカか？イギリスか？フランスか？ドイツか？」端的にはアメリカを指すのでしよう。

集団的自衛権容認でのメリットは、一、中国の軍事力増強など安全保障の環境が変化する中、日本の防衛戦略の幅が広がる。二、これは外交カード。万が一の時には助け合うというカードを切ることで友達の輪が広がる。これで日本の外交的な抑止力がより担保される。

三、万一侵略を受けた場合は、ともに戦うことによつて侵略をより少ないコストで阻止、撃退できると言う大きなメリットが得られる

一方、デメリットとして一、従来日本が攻撃を受けた場合と言う明確な歯止めがな

くなり、ほかの国の戦争に日本も参加することになる

二、日本防衛のための限定的な容認としながら、政権の解釈次第で範囲が拡大する可能性がある

三、日本は憲法九条の平和主義のもとで経済発展を優先させた。軍備に金を使わずに済んだ。日本に集団的自衛権を行使し戦争する金はない

四、集団的自衛権の行使容認を、厳格な「憲法改正」でなく、簡易な憲法解釈の変更で行うことは、立憲主義から逸脱している。

等々こうしてみると、現政権がアメリカのオバマ大統領に圧力をかけられ踊らされているとしかいいようがない。

公明党の代表は、「国民に丁寧に説明していきたい」とマスコミによく答えている。説明だけすればよい問題でなく、国民が納得しさらに、了承しなければならぬ大問題である。国内のほとんどの人が反対し、大々的な反対デモもおこなわれている。こんな時にこそ、「国民投票」により国民の民意を問う問題ではないでしょうか。

安倍政権は、今こそ国民に耳を傾け将来の子々孫々に禍根を残さないカジ取りをシッカリやって頂きたい。

ここまで述べたことは私の主観的なものでOBの皆さん方もジックリ考えて頂けたら有難いと思います。先の大戦で戦死した父をもつ遺児にとっては、兵役の復活が絶対あつてはならないことで「何より平和が一番」と言うことを肝に命じておきたい。「国民の安全」は法律だけ決めたから大丈夫と言うものでないことが大事なことでしよう。



嗚呼、道下幸助さん

逝く（一）

沖繩戦の生き残り

一兵士の悲惨な戦況

辰口地区 永山純夫



沖繩戦に関して参考文献が沢山出ていますが、我が郷土の先輩でコマツOB会員の中で、沖繩戦の生き残りの体験談の一部を次に紹介します。

道下幸助さん（石川県能美郡辰口町岩内 大正十二年生れ）は昭和十九年四月、東部41部隊（群馬県沼田市）の急造のバラック兵舎へ現役兵として入隊、陸軍の迫撃兵として軽迫撃砲第一大隊第五中隊に編入、八月に部隊は動員、鹿児島で輸送船団の乗船待ち、ようやく出港した

ら奄美諸島付近で待ち伏せしていた米軍の潜水艦の雷撃を受け、道下さんの目の前を航行していた貨物輸送船が二隻轟沈。

船団は右往左往して九州のどこかの港に逃げ帰り船団は再編成されて、今度も行先も知られず再び出港。ようやく落ち着いたところが沖繩本島の浦添村沢岬の集落で九月中旬になっていた。急いで掘っ立て小屋の仮兵舎作りと陣地構築と戦闘訓練に明け暮れていた。

昭和二十年になると空襲（空爆）が激しくなり元旦から連日空襲が激しくなってきた。

主に敵の空母から発艦してくる艦載機による爆撃で、三月二十三日頃になると爆撃の他に艦砲射撃が加わり横から大きな砲弾が飛んでくるのに参って本島の小高い丘に登って四方を見ると島の周辺は敵の艦隊に取り囲まれていた。

三月二十六日以後艦砲射撃と爆撃が熾烈を極めた。四月一日読谷の方へ敵が上陸して来た。道下さんの部隊は浦添の沢岬に待機していたが、牛島軍司令官から指示があり沖繩は本土決戦の一里塚になるから一日でも長

く持久戦でいかにやらんと、その為には上陸間際の戦闘に兵隊は出動しないと、敵に十分上陸させて陸上で上陸部隊を撃滅させると言う戦法であった。その為には米軍にとっては日本の兵隊はおろか島民の顔一人見えず、みんな逃げてしまつて誰もいないと思われるほどの静かな上陸であった。

本島のあらゆる方角から大部隊が上陸して来たが主力は読谷であり、読谷の洞窟まで進軍して来て島民の顔を見てお互いにびつくりしたとの事。そこで島民の多くが自殺された。



傷痍軍人会（全国組織）と海交会（石川県の海軍の下増兵から成る会）と共同で金沢市で平成21年に平和記念展が開かれ、特に道下幸助さんの沖繩戦の生き残りの展示品の特別コーナーが設置された

この時点では民間人と日本軍は別々であった。在留邦人、非戦員の犠牲を出来るだけ少なくする為の牛島將軍の配慮であったが。

道下さんの部隊に指示があったのは四月六日頃の夕方であった。中隊長は皆を集めて、我が部隊に出動命令が下った。

嘉数方面に敵が来ておる。

今晩中に嘉数の陣まで行って翌朝戦闘を始めるから全員の命を中隊長に預けてくれと言う命令があつて、夜の間に部隊は移動して嘉数に着き陣地に待機しておつたら、昼間敵は戦車を先頭にして後方に歩兵がかんで自動小銃を構えて、人（日本人）が居ても居なくても只撃つてくる。日本と違って米兵は前方をとこ構わず自動小銃を回し撃ちしながら前進してくる。一発の銃弾も儉約しながら戦っている日本軍と大違い。戦車は戦車砲をボンボン撃つてくる。

道下さんの様な新兵達は塹壕から出されて蛸壺（戦闘で砲爆撃から身を守るための一人用の塹壕）の中に入って待ち構えていると敵の戦車が千メートルから五百メートルの軽迫撃砲の射程

内に入つて来た。中隊長は軍刀を引き抜いて味方の陣地内を駆けずり回つてうちかた始め（射撃開始）叱咤激励する。



道下さんと海交会の武部会長（海軍）

撃ち込め！ 撃ち込め！ と弾薬小隊は次から次へと玉（迫撃砲弾）を運ぶ、一番砲手は疲れるから分隊長（下士官）の号令で次々と交代する。

米軍の戦車は装甲が厚く（80ミリ）頑丈に出来ていたので迫撃砲弾が正面に当たってもびくともしなかった。

敵戦車隊が10輦か15輦、味方の陣地に迫つて来たので急遽爆雷を背中に担いで蛸壺に入つて居て、戦車が目前に来た時、前に

下がって線（紐）を引っ張ると10秒で発火して爆発する仕掛け。直前に背中から降ろして戦車の真下に放り込む。切迫して体当たりで戦車諸共自爆する兵もいたが敵の戦車に大きなダメージを与える事が少なかった。実際には戦車が近づくまでに味方の将兵が遣られてしまった。戦車の死角（盲点）を狙っているものの、一輦の戦車だけなら死角を狙えるが、あつちからもこつちからも戦車が来るから

（訓練と違う）死角がない。

其の上、戦車の後に米軍の歩兵が自動小銃を撃ちながらついて来る。戦車が目の前に来れば良いが少しでも離れていたら、近づいて投げ込まなければならぬ。急造爆雷を背中に担ぐ兵隊も順番があり下士官や古年兵は後に残す必要から、主に初年兵が焚き付け（消耗品）として交代で蛸壺に入つた。

道下さんは二日間に二回順番が来たが道下さんの蛸壺陣地に直進して来る戦車は無く途中で五メートル程横にそれて行ったけれども、立ち上がる事も出来ない程、銃弾が頭上を掠めた。鉄兜に銃弾が正面（直角）に当

たるとドリルで鉄板に穴開けた様に兜に穴が開いて貫通するが、一寸横にずれると跳ねて横に逸れて飛んで行く。鉄兜は銃弾の傷跡だらけ。

米軍はどんな場合でも夕方になると必ず後方2キロ程後退してテント張りの所で休養する。

白兵戦の跡には爆雷で動かなくなった戦車が三輦ほどに米兵の遺体が五人程で残りの遺体は日本兵の戦死者で無残な惨状であつた。

弾薬小隊の小隊長が大卒で幹部候補生、少尉に任官して喜んでた。初年兵を大事にしてくれた人で、腸が飛び出しており、この軍刀（小隊長の）で敵を取つてくれと絶叫して止まなかった。白兵戦のあつた所が砂糖きび畑だったので、兎に角、味方の陣地まで（百五十メートル後方）引き摺り運んだ。

あつちもこつちも味方の兵隊の死骸が散乱。鉄兜が飛んで顔（首）が無いもの、道下さんの部隊で戦死者は十六名程、あの時、道下さんの身辺を掠めた敵弾の数は本当に雨霰の表現の通りで、自動小銃の銃弾、戦車砲の砲弾、機関砲、迫撃砲、機関銃等、本

当に敵弾に当たらない方が不思議なくらい。初めての戦闘で白兵戦とはこんなにも残酷で無惨なものかと思った。

中隊長は各小隊、各班の人員を掌握せよと指示され、負傷兵は南風原陸軍病院（野戦病院）へ移送せよ。生き残った者は今晩中に次の陣地へ移動せよ。食料、弾薬等の運搬が大変。負傷者は沖縄防衛隊（沖縄県民）に移送させた。



旧陸海軍の軍装品の展示の説明

この戦闘で生き残った事で道下さんは武運に強い自信を持たれた。次の陣地の白兵戦でも同様な戦況であった。

法（夜襲）に入った。夜中の十一時か十二時、各部隊によって違うが五名で上等兵が指揮をとり帯剣（銃剣）に布を巻き地下足袋（初年兵は藁草履）、戦闘帽、手榴弾を腰に四発程、乾パンを三分携帯して出発する。夜間は艦砲射撃も空襲も無い。米軍は必ず安全な所にテントを張り自家発電の電灯がついて明るく、音楽が聞こえ十分に休養を取り、三日ほど前線にいて後続の部隊と選手交代（交替）50万の上陸部隊、自動小銃と戦車に守られて人命尊重で無理をしない。方や日本軍は壕の中でローソクの明かりに昼も夜も戦い、夜襲の度に戦死者が出て、物資、弾薬、食料、人員等の補給は全く無く玉砕があるだけ。

最前列の歩哨については日本軍は厳しいが、米軍の歩哨は銃を持って居眠りしている事があり、足音を忍ばせて近寄り、古年兵が銃剣で刺殺し銃剣で刺し殺してから（下士官はピストルを持参した）テントを捲って手榴弾を地面の硬い所や石に叩いて発火させてテントの中へ投げ込んだ。（十秒以内）二発目を投げ込んだ時、歩哨の盲撃ちが始まった。

一回目は成功したが、二回目は下士官が先導して行ったが効果は半分で二人戦死。



旧陸海軍の軍装品のマニアである私 永山が道下さんに賛同し、軍装品の展示と陸軍兵士の軍装で出演する永山

三回目は歩哨にすぐに見つかり遠くから手榴弾を投げて引き揚げた。この頃にはテントの周辺にピアノ線が張ってあり、触れると敵に分かる様な仕掛けになっていた。その線に絶対触れぬ様にして注意して行っても切り込みは道下さんの部隊だけでなく、あつちからも、こつちからも各部隊の切り込み隊が出て行くから先に発見された方に敵の銃弾が集中するので、その間隙をついてテントに迫る方法に出たが効

果薄くて、味方の損傷が多くなつた。負傷した戦友を見捨てて、退避する事で精一杯だった。四月二十日頃の戦況です。

道下幸助さんの部隊（玉一二三八部隊）は米軍の陽動作戦に備えて、沖縄本島の南端知念半島具志頭村港川の集落に布陣していたが、四月一日米軍の主力部隊が本島中部西海岸宜野湾から嘉手納、読谷、北谷に上陸、日本軍の第一防御線に布陣している石部隊（62師団）を支援する為に、夜中に食料弾薬兵器を持って強行軍で移動（約25キロ）宜野湾の我如古に布陣。

――前方3キロの所に敵がおり、1キロ先に友軍（味方の日本軍）の歩兵、一個大隊千名が配置されておるとの情報に基づき、友軍の後方から援護射撃をする為に軽迫撃砲（中隊に12門）を蛸壺陣地設置して待機していると、上空に敵のトンボ（小型の観測機）が低空で遊弋（飛び回る）して逐一敵情を連絡している。間もなく艦砲射撃の巨弾が味方陣地の周辺に激しく炸裂する。七時頃か？九時頃か？米軍の戦車17輦ほどが前方千メートルの所に進軍して来たので友軍援

護の為に迫撃砲を撃って撃って撃ちまくったが戦車砲の応戦の砲撃が激しく、戦車の後に敵の歩兵部隊が自動小銃を盲滅法に撃ちまくり目の前（百メートル乃至五十メートル）に近づき、味方の迫撃砲弾が敵の部隊の後方に着弾する破目となり、中隊長が大変驚いて慌てた。と言うのは前方に布陣している筈の味方の歩兵部隊が一兵も居なかったからで、後から分かった話で、前の日の戦闘で大半を失った部隊の生き残りは前の晩に後方へ引き下がった事の連絡が中隊長に届いて無かったからである。訓練では敵を前方千メートル乃至五百メートルが最も軽迫撃砲の有効な射程距離であったが、周辺に味方の歩兵の援護が無いまま突然敵の戦車と接近戦、或いは歩兵との白戦に持ち込まれ、迫撃砲の砲身をほとんど垂直（零距离射程）に立てて撃った。初戦で半数近い兵力を失う悲惨な戦闘となった。

日本軍は通信連絡の不十分な中で初戦から陥落まで不利な戦いを強いられた。一般的に迫撃砲は歩兵の突撃が始まって友軍の勇敢な兵士が先陣を競って敵陣に突入する直前に、タイミングよく敵の頭上から迫撃砲弾を雨霰の如く浴びせる戦法が最も効果的であった。



道下さんと永山

陣地替えして嘉数の陣では歩兵の大部隊（62師団）と協同で一進一退に攻防戦が二週間程続いた。日本軍は迫撃砲、機関銃、対戦車砲、高射砲（水平に撃つ）を配置して正確な射撃と急造爆雷による肉弾体当たり攻撃で戦車22輦破壊し、米軍に与えた損害も多かったが味方の戦力も半分以下となり、じりじりと後退しながら第三防衛線の前田高地の陣まで下がって態勢を立て直した。

前田高地では首里の軍司令部まで四キロ、死守せよ！との指令があり、死に物狂いの攻防戦が五月上旬まで続いた。

道下さんの鉄甲は言うに及ばず雑囊、水筒まで敵の銃弾でボロボロになっていたが不思議と身体にはかすり傷一つ受けなかった。日本軍の抵抗は全線に涉つて衰える事なく続いた。

一つの部隊が全滅するとすぐに他の部隊が後方から交替して戦った。毎日毎日戦死者と負傷者が続出した。

前田高地の激戦地で道下さんの中隊（軽迫撃砲）は二百人が五十人前後となり、迫撃砲は五門ほど、食料も弾薬も僅かとなり中隊も最後の玉砕と言う程になった。第32軍の残存兵の総数も一万人程になっていた。

米軍は強力な火力と物量で日本軍を圧倒して来たが、日本軍の捨て身の戦法に敵わずジリジリと後退していった。戦車を先頭に火炎放射機を交えて、前にいる兵隊を焼き払ってきた。

その戦闘の時、道下さんは軽迫撃砲の二番砲手として砲身に砲弾を入れた瞬間、大きな爆発音と共に後から棍棒で頭を殴られ



戦後、沖縄戦の跡を訪ね歩いて野戦病院跡から収集した道下さんの展示品。戦闘の跡の鉄片と人骨片含まれていた。

た様な衝撃で倒れた。

傍にいた戦友が「道下どうした！やられたか」と言って戦友二人が駆け付けて「オイ、オイ」と言いながら道下さんの頬を数発殴りつけた。

何発目かに意識が戻った。

道下さんは初めて自分がやられた事が分かった。ズキンズキンと痛みを感じて見ると、右手の軍服の上からぬるぬると血糊があり。

続きは会誌38号『南風原陸軍野戦病院 第24号地下壕』です

OBが体験した 第66回全国植樹祭

石川県では32年ぶりの全国植樹祭が天皇皇后両陛下をお迎えして5月に行われた。式典ではコマツの林業機械のパフォーマンスがあり、県外OB会にも声がかかり多数参加された。地元では式典会場に入ることが出来た人や、こまつの杜付近や沿道で奉送迎された方など、思い出に残る一日でした。全国植樹祭の体験談を特集しました。



H27.5.17 小松市木場潟公園にて

人生大晩年に出会った 忘れ得ぬ感動的な出来事

氷見工場OB会長 大石 勝己



一月終り頃、長らく氷見工場でお世話になり、その後も引き

続きOB会でもお付き合い戴いている西尾会長から、今回の小松市で開催される全国植樹祭に「コマツOB会員を県外招待者として遇したいので至急、各OB会単位にて希望者を取りまとめ願いたい」旨のご連絡を戴き、臨時役員会に諮ったところ「またとない機会、是非参加しよう」ということで急きょ募集し、37名（内女性15名）の参加を得ることができました。

当日は前日までの曇り空とは打って変わって雲ひとつない

文字通りの『天皇晴れ』となり、早朝からの「若杉憩いの森」での招待者記念植樹に始まった大イベントは、木場潟式典会場における天皇皇后両陛下お手植え・お手播きのセレモニーをクライマックスに大きく盛り上がり、数々の見事なアトラクションがそれに華を添えて約4時間余に及ぶ日程が滞りなく、そして無事終了致しました。

今回参加したある会員が、小松の木場町に住む友人に「今度の植樹祭で会おう」と電話をしたところ「お前、どうしてそんなもん当たったがや！」と羨ましがられた話や、再来年第68回全国植樹祭が富山県魚津市周辺で開催されるが、「たとえ応募しても百万分の一の確率ではとても見込みがない」という話がバスの中で交わされ、今回の行事に声かけ戴いたことへの感謝と、コマツOBであることの有難さと誇りのようなものを、今

更ながら感じながら帰路についた次第です。

終わりに小松市実行委員会へコマツOB会担当として出向されていた宮崎副会長には数ヶ月間に亘り、種々ご指導ご配慮戴き、有難うございました。

また、前日には休日にもかかわらず「こまつの杜」見学に案内していただいた栗工OB会幹部の皆様にも心から感謝申し上げます。

氷見寿松会 坂下見秋さんから「メール」私達の席は中央の前の方で、とても気持ちよく鑑賞することができました。参加者全員感謝しています。



氷見工場OB会（寿松会）の皆さん

全国植樹祭に参加して

コマツ川崎OB会

高松幸一郎



憩いの森で植樹の筆者

素晴らしい一生の思い出になりました。
開通を待ち焦がれていた北陸新幹線で5月16日上野発10時58分（はくたか559号）に乗車し翌17日（日）に小松市木場湯公園で行われる「第66回全国植樹祭」に参加させて頂くために金沢を目指していました。

北陸には2013年の9月にレンタカーで金沢駅から五箇山

へ安宅関く東尋坊く永平寺から那谷寺へコマツの杜く兼六園と3泊4日で旅をして北陸の見納めと思っておりました。粟津工場・小松工場は仕事や労働組合等を通して思い出深い好きな場所です。この度は思わぬ小松での植樹祭の知らせを頂き有難く参加する事になった次第です。宿泊は片山津温泉、窓からは柴山湯の噴水が正面に見える天然の癒しの宿でした。夕食時には懐かしい先輩や後輩方にお目に掛かることが出来て楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

朝日と共に目覚めて身を清め、迎えるバスに乗り植樹会場の「憩いの森」に移動して広大な森や送迎バスと人の多さに驚きながら係りの方の懇切丁寧な指導で私はアテ（ヒノキアスナロ）を植えて植樹を体験致しました。今回の大会テーマ「木を活かし未来へ届けるふるさとの森」を念頭に大きく育って天まで届けくとの願いを込めて・・・

植樹行事の記念式典会場は憩いの森から5キロほど離れた「木場湯公園」で行われ、正に日本晴れの好天気恵まれました。

天皇・皇后両陛下をお迎えご臨席された式典は見事なほどの運営でした。アトラクションの森林資源活用演出やコマツの林業機械、また職人技の曳山展示など木を活かした祭り、芸能や伝統文化等々、沢山の参加者が招待者を楽しませてくれました。特に感銘を受けたのは両陛下のお手植え、お手播きの際に介添えの子供たちとの和やかな対応風景でした。皇后さまがお手植えの際に膝を付かれ両手で根を固めるお姿は涙が出るほど感激しました日本人で良かったなと。

天皇・皇后両陛下は16日に北陸新幹線で金沢にご移動されて17日午後から植樹祭にご臨席の後「サイエンスヒルズこまつひとものつくり科学館」に寄られてから九谷焼技術研修所をご視察、18日金沢城公園ご見学されて小松空港からご帰京されたと新聞の両陛下ご動静に記されておりました。

私は式典の後、小松駅前で両陛下をお見送りする日の丸の小旗を振る皆さんを横目にして、新高岡経由で瑞龍寺を見学し氷

見海浜荘に宿泊し、翌日は雨晴海岸や万葉鉄道で高岡大仏と海王丸を見学して、思い出深い「第66回全国植樹祭」を楽しんでまいりました。

最後になりますが本件に関係された皆様方に心からお礼申し上げます。
ありがとうございました。

コマツ川崎OB会

会長 物部光行さんから

【メール】

このたびの全国植樹祭に関しましては、大変ご苦勞様でした。私も、テレビで見させていたいただきましたが晴天に恵まれ良かったですね。参加された皆さんも夫々に思い出がで、感動を持ち帰るものと思います。
大変ありがとうございます。
会長をはじめ、役員及び関係者の方によりしくお伝えください。

歌声よ 陛下に届け植樹祭

東陵地区 山 勝三

去る5月17日の陽春、小松市内の木場潟公園で、天皇皇后両陛下がご臨席され、全国植樹祭が開催された。

その本会場で、小松市合唱協会のメンバーの一人として、一人余の出席者の下、天に届けよとばかり、華麗な？歌声を広い場内で響かせた。

とにかく、その他大勢の中の一員としてではあるが、両陛下の前で歌声を披露できるなど、70年余の人生の中でただ一度きりのチャンス。歌っていて臉の裏にジーンと来るものがあつた。

晴れの舞台に立ったのは、合唱隊の方は合唱協会メンバーからセンバツされた私ほか熟年男女60数名と、近隣の小中高校生の代表、計220名余。ともに演奏したのは市内6高校のブラズバンドメンバー280名余。総計500名余の大部隊。昨年暮れ音楽隊を結成。冬場の厳し

い寒天の中、今日のこの日を目指して、練習に次ぐ練習を重ねて来た。

当日は何と早朝5時半、郊外の駐車場に集合。バスで早々と会場入りをして国際空港並みの身体検査を受け、パスポートならぬICカードを提示して待つこと4時間。

10時過ぎにオープニング行事が始まった。前日のリハーサル時は冷たい雨が降りそそぎ空模様は最悪だったが、この日は何と雲一つない快晴。さすが陛下のお力は大了なものだ。畏れ入る。

11時、記念式典が始まった。ファンファーレが高らかに鳴り響き、我々音楽隊は「石川県民の歌」を声高らかに歌って両陛下をお迎えする。会場を埋めた総勢一万人の参加者が、一斉に日の丸の旗を振る。青空の下で薫風にはためく一万個の日の丸ひな壇の上から見てみると、壮観そのものだ。

黒塗りのリムジンから先ず皇后陛下が降りられ、続いて天皇陛下。皇室もレディ・ファーストになったよう。式典会場の中央の席へは天皇陛下が先に歩か

れ、皇后陛下は天皇陛下の腕に軽く手を掛けられ半歩後をゆつくりと。仲睦まじく微笑ましい。

両陛下のお手植え、お手播きも無事終了し、記念植樹、リレーセレモニーも無事終わって、正午近く、式典が滞りなく終了し、両陛下は会場に向かって、やさしく手を振りながらご退席。何となくホットする。お役目、ご苦労さまです。

続いてアトラクション、グラウンドファイナーレと続き、正午過ぎ、予定された総ての行事を終了。われわれ合唱隊も式進行の役目を終えた。

式典終了後、一万名余の参加者をさばくため、百台近いバスが会場と駐車場をピストン輸送したが、我々の順番が来て帰宅できたのは午後5時を過ぎていた。12時間の長丁場。

音楽隊のみなさん、どなたもご苦労さま。

余談だが、我が愛妻は会場入りの抽選に外れ、孫たちを連れて両陛下がお通りになった道路の脇でお迎えしたが、後日小3の孫娘曰く「おじいちゃんとおばあちゃん」の姿、見えたよと。



1ヶ月前 式典会場でのリハーサル



2月 公開練習会(サイエンスヒルズにて)

全国植樹祭会場の主体

・主役は誰なのか

(国民主権とは何かの一例)

向本折地区 小枝 俊弘



●一、はじめに

日本国憲法の平和主義、自由平等の基本的人権と並ぶ三本目の「国民主権」について考えよう。日頃、日曜早朝のTV番組「皇室アルバム」の常連として国民の象徴であられる天皇と皇后両陛下のお姿を拝見する都度、立振舞いに感服させられている視聴者の一人である。昨年・五月に木場潟公園で全国植樹祭が天皇・皇后両陛下の御臨席の下に開催されるので、万難を排して参加しようと半年以上前からの応募を申込み、幸いにも抽選で出席が叶うと「生の、直で」の御姿拝見を楽

しみにしていたが、当日の一般招待者席に座って式次第の進行中に気付いた事を以下述べてみる。そもそも全国植樹祭は公益法人・国土緑化推進機構職員と開催県の県庁職員が「天皇・皇后両陛下の御臨席を仰ぎ」て毎年春季に全国の何処かで行っているものである。

●二、はびこる緑の毒樹「国土緑化推進機構」の天下り官僚

現在、この機構の理事長は元・東大総長の非常勤のS氏で、常勤の理事役員達は元林野庁OBで農水省の所謂、天下り団体である。開催県側は概して植樹祭のプロジェクトに特化したチームのトップを知事とした県・林野部門職員と応援職員で構成されている。組織の目的は天下り法人名の通り国土緑化を推進するもので木を植えて育てなければ本来の緑化とは言えない。本来は春季と秋季と国民体育大会の様に種目別・機能別に行われるべきものである。元々戦後の野山や森林を荒廃から守る為、育樹を含むメンテナンス機能を失ったままの植樹機能に限定してきた欠陥行事であったが、前述の育樹祭が後に追加され秋の

開催が行われた。この失敗を機会と捕らえ逆手に採って育樹祭は国民の為と言いながら天下り役人の権益確保と予算枠拡大の為に自らの天下り役人の為に遣りたい放題で、育樹の機能も大事だといって別枠の国民的行事として「本来の機能であるべき植える、育てる」の育てるを25年後に補充させて新たに育樹祭を発足させ予算拡大の大盤振舞いと組織の増殖及び権限の拡大が目的であった。この場合、国民から選ばれた選良でもない単なる縦割り官庁の一介の上級国家公務員採用試験合格者の元OBの理事長、理事達で構成される国土緑化推進機構役員達が行う両陛下の直接の接遇担当という大それた役割をして国権の最高機関・国会の衆参両議長までもが植樹祭・育樹祭の大会長や最高顧問に担がれ利用されるが彼等も両陛下との「近接」は満足でも無いのである。

●三、植樹祭の主体・主役は主権者の日本国民と日本国民統合の象徴の天皇陛下であるべき

本来、天下り法人は誕生する必要性はなく所管の農林大臣(国民が選んだ過半数以上の政

権党内閣の一國務大臣)が主催する植樹祭で主権者・国民の象徴である天皇陛下が国民の意を体して「植樹祭の御臨席される」事は一国民として異論は無い。

しかし衆参両議長・大臣は国民の代理・代表(所詮、国民の意見や考えを代って表し執り行う者)であつて、決して国民自身・其の者ではないから主権者(主人)ではない。国家公務員及び天下り法人職員は主権者の公僕(使用人)であり、主権者たる国民の代理・代表である国家の首相・大臣もまた使用人であつて国家の主権者(主人)はあくまで国民である。言うまでも無く日本国憲法で定めた主権者は国民なのであるから全国植樹祭の主体・主役は実は国民であつて大勢の国民に一人一人に物理的、時間的に接するのは不可能であるからして象徴天皇陛下が主権者・国民に代わって閣僚や県知事からの接遇を受けられ、主権者・国民の象徴である天皇と皇后両陛下が厚くオモテナシを受ける事は至極妥当な事で筆者は決してこれを否定しているのではない。

●三の一、一般招待者とは誰か?

そこで今般の国土緑化推進機構（使用人）が主権者（主人）に向かって「招待してやる」と云う意味の国民を「一般招待者」との表現は明らかに大いなる誤りである。其の訳は上述の如く植樹祭の主体・主役は主権者・国民（参加する国民を含む）であることは論を待たないのに誰が誰を招待するのか、此処にあつてはならない事が公然と起きている。所詮、主権者・国民から委託された使用人に過ぎない国土緑化推進機構が企画・実行部隊で主催者かもしれないが。しかし植樹祭は「主権者たる国民」が国土の緑化の推進を理解する為の大キャンペーンが目的なのだから国民が「主体・主役者」が真の立場や位置であるはずなのに、庶民・大衆を招待してやるという「一般招待者」の呼称は明らかに国土緑化機構が主催者・主人であつて、本来の「国民参加」を「一般招待」というのは、招待してやるから感謝しろと言わんばかりの表現は、日常の公僕として国民への奉仕でなくて、ご主人様が下々

にも恩恵を与えてやるぞと近世・専制君主の武士階級の農民・納税者の官尊民卑の発想そのものの表現である。「誰のお陰で俸給」を貰っているのか胸に手を当てて良く考えて貰いたい。主権者・国民からの納税が原資で実は扶養して貰っている現実をわきまえよと言いたい。以上の如く主体・主役者である国民の象徴の天皇と皇后両陛下は十分心得ておられるが主権者・国民の代理者として選挙で直接、間接に選ばれた閣僚、県知事はまだしも、選挙にも選ばれてない天下り職員達は本来は主権者・国民の使用人である筈だが、天下り職員達自身と誤った一部の国民が代理者（議員）や使用人（役人）が主権者・国民より偉いと思つているから、世の中が主客転倒するのである。此処は「一般招待」で無くて「主権者・国民参加」とすべきである。因みに皇居での正月や天皇誕生日の「一般招待」ではない「一般参賀」はまだまだだが、これも「主権者・国民参賀」と修正すべきであるが。

●三の二、主権者・国民参加の植樹祭会場の設営配置の大誤り
植樹祭会場の設営配置に於いて、特に「一般招待」席でなく「国民参加」席が参加した主権者・国民にとつて妥当なものなのか、即ち多数の主権者・国民が参加するので、なるべくコストはかけずにやりたい。その為の簡素化はある程度止むを得ないが、しかし本質を外しては「元も子もない」。通常、国民が陛下と共に参加するのは天皇誕生日や正月の一般（国民）参賀の行事が存在するが、この場合は宮殿のお立ち台展望室に横一列に皇族方と共に正月を賀する（祝う）が議員・官僚の姿は無い。参賀者が仰ぎ見る姿勢でお姿やその動作が拝見できるので何の問題もないが、今回の木場潟公園での植樹祭は主権者・国民が直接に参加するのであるから、この主権者・国民が自然な姿（立ち姿、座り姿のいずれかで）で式典に於ける両陛下の立振舞いが自然に視界に入る（見られる）環境・設備が、必須の必要最小限の条件である為に所謂「一般招待（国民参加）」席は階段状の



一般招待席（主権者・国民参加席）からみた遠い舞台の両陛下の頭から足のつま先までのお姿が極小でも、生で、直に見られるべきだが、写真の如くで頭部がかすかにみえる。この国の主権者なのに情けない、断じて大型スクリーンを見に来たのではない。溜息。

段差又は勾配（スロープ）のある観覧席にするか、或いは主たる行事エリアを1・5m高さから2m高さ位の簡易舞台とすべきである。

木場潟公園・植樹祭の場合、両陛下の御臨席の机・椅子にしても両陛下の姿は首上しか見えずつめて胸部から上の即ち顔部が見えなくては失礼である。肝心の所謂、主権者・国民の「一般招待（国民参加）」席の最前列は別として二列目以降の約八千名席からは殆ど何も全く見えない状態で見えるのは参加している主権者・国民の後頭部群及び後背部群だけで式典の全1時間以上何があったかアナウンスの声だけで何の為に参加したのかさっぱりわからなかった。当日の案内役の県知事以外の県会議員や市会議員達の特別招待者席は主権者たる国民が「主体・主役者」として直接出席しているので本来は全く出席が必要でない。どうしても一国民として出席したければ主権者・国民と同様に参加申請し籤引き選考で漏れたならばテレビ視聴等すればよい。何時のまにか間接民主主義で代理者（県・市会議員）が主権者（主人）に成り代わっていて、通常、議会等で議員が主権者の代理・代行は本来業務をこなすのは良いし権限も付与されていて良いが、主権者が直接

参加・出席する時は控えるのが妥当な態度であると思うが、間接民主制の悪弊で、主権者と同席の場合も居座って代理者が主権者より偉いと勘違い、否本当に偉いと思っているからして、肝心の主権者・国民側もそんなものかと国民主権の民主主義の精神をつい忘れて参加型民主主義がお任せ民主主義や観客型民主主義に陥っている。以上の主張を奇異に感じた方々は概ね真の民主主義を心得ない種類の人々である。



国旗掲揚で一般招待席（主権者・国民参加席）全員の頭や顔が180度真後ろになっている時の一瞬を望遠で拡大撮影したものだが、天皇陛下のお姿は見えないし、皇后陛下の両肩上しか見えない。

●四、おわりに 早朝五時半からの出発や持ち物検査、ボディ

チェック、飲み物容器制限や約半月前からの二度にわたる出席確認して式典の全容が盲人同様の不遇を強制的にさせられた感じで御姿ひとつ何も見えず、何の為に参加したのか惨澹たる状況であった。ドーム付の野球場及びサッカー場、陸上競技場、屋内外の相撲場、映画館、観劇場（歌舞伎、能楽、オペラ、音楽）でも遠目はあるものの、見えてなんぼの舞台が見えないなんて古代ギリシア・ローマに遡る円形劇場や闘技場（コロッセオ）からの古今東西の歴史上あり得ない舞台装置の催事が21世紀の小松市木場潟公園の植樹祭の現場で起こったのである。国土緑化推進機構理事長S氏の東大教授時代のプラトン哲学から始まる政治学の民主主義精神の具現が木場潟公園の植樹祭の一般招待席（国民参加席）の設営・配置で言行不一致がよく解った。この国民を蔑ろにした功績で安倍内閣から文化功労受賞された。恐らく十ヶ月後（本誌発行の翌三月中旬）今日も天降り法人職員と開催県の県庁職員も未だに、努々この彼等自身の不始末を誰一人気付いていな

いだろうが、特にマスコミのテレビ局面面の動画や新聞社の写真とは全く鳥瞰的な会場全体か両陛下付近のもので一般招待（主権者の国民参加）席から目線が全く無く木場潟公園・植樹祭の欺瞞性に満ちた実態を映した映像・画像が無いのは本当にお粗末である。因みに後の昨秋行われた育樹祭もテレビ画面で見ると木場潟公園の植樹祭と同様、一般招待席は同配置で無視されていた。主権者・国民の本音としては両陛下のお姿を直に近くで拝見したい気持ちで一杯なのである。後の訪問先のサイエンズヒルズ辺りで待機していれば直接、近くで拝見できる目的が簡単に出来たと想うと本当に苦々しい木場潟公園・植樹祭と同時に国民主権とは何かを考える一日でもありました。（完）

二度目の植樹祭

苗代地区 宮崎紀代二



(左端 筆者)

第66回全国植樹祭のメイン会場が木場潟公園と決まり、小松市役所内に準備委員会が設けられた平成26年3月、市役所に勤めるコマツOBの方から声がかかり、囑託として事務局で一年余りお手伝いしました。

私にとりましては、昭和58年石川県では初の全国植樹祭が津幡町で行われた折、その前日に昭和天皇が栗津工場をご視察されましたが、その受入れプロジェクトチームの一員として専従して以来、二度目のご奉公と、喜んで勤めさせて頂きました。仕事の方はたいして役に立ったとは思いませんが、植樹祭全体が盛大に且つ滞りなく行われ、開催市と

しての役割を十分果たすことが出来たことは嬉しい限りです。

今回の植樹祭ではコマツの林業機械が両陛下の前でパフォーマンスを演じること、県外から多くのお客さん呼びたいこと等から、石川県より県外のOB会に参加を呼び掛けてほしいとの依頼があり、各工場OB会にご案内をしました。その結果、社友会、川崎OB会、氷見寿松会などから70名の会員ご家族に参加頂きました。遠方より参加された皆様にお礼申し上げます。県当局から感謝されるとともに、参加者からも県外客ということで前の方の席だったのが喜んで頂きました。

一ヶ月前のリハーサルは雨でした。前日リハーサルも冷たい雨が降りアトラクションの踊り子たちは雨合羽を着て寒さに震えていました。しかし、翌5月17日は快晴、誰かが「天皇晴れ」と言いました。

私は、式典にご臨席の両陛下の様子を会場後ろの仮設の運営本部室のテレビモニターを通して見ていました。両陛下のお互いを思いやる心、緑の少年団に対する心遣いに感動しました。と同時に、32年前も昭和天皇が

総合事務所に入られた時は、壁ひとつ隔てた庶務課の事務室で外部からの不審電話などの対応のために待機していて、直接、陛下を拝見することが出来なかったことを思い出していました。

社友会幹事 甫喜山 准さん

(OB会連絡会事務局) から

【メール】

植樹祭お疲れさまでした。

天気が良くて、なによりでした。NHKのTVで実況中継していたので、拝見しましたが、記念のお手植えの際に、皇后陛下が丁寧に素手で土を押されておられたのが印象的でした。

【写真説明】

式典の中で、コマツの林業機械を女性社員が運転し、パフォーマンスを行った。写真は、一ヶ月前リハーサルの模様。

《余録》

平成28年初頭、石川県より次のような発表があった。

今般、天皇陛下より

「父君の 蒔かれし木より 作られた 鍬を用ひて くらまつを植う」

という御製をお示しいただいた。32年前、昭和天皇お手播きのスギから、地元高校生が作った鍬で、お手植えされた情景をお詠みになったものです。

3月中には、式典会場近くの広場に、御製碑と当日両陛下がお手植えされた6本の苗木が移植されることになります。あわせて、式典の御座所として使われたお野立所は野外ステージや屋外休憩所として移築されます。今回の大会テーマである「木を活かし 未来へ届ける ふるさと森」の意義が、永く後世に残るシンボルとなることを祈るものです。



コマツ社員クラブ・保養所の紹介

この記事は、コマツ社友会様の許可をいただき、「コマツ社友会会報30年のあゆみ」より転載させていただきました。料金等は変更になっている場合がありますので、申込時ご確認下さい。

コマツの社員クラブおよび保養所について概要を紹介します。

宿泊できる施設としては全国に7か所あります。各施設の近くにはそれぞれ特色ある観光地やおいしいものがたくさんあり、また料金も一般宿泊施設よりも格安で利用できるというメリットがあります。

これらの社員クラブ等を組み合わせての2泊3日旅行なども計画されたいかがでしょうか。予約方法などは、下表に掲載の通り直接利用施設にお申込み下さい。

また、下表の利用料金は、原則的に社員（OB含む）および同居家族の場合を示しております。その他の同行される方の料金については一般扱いとなりますので申込時に確認して下さい。

注：2014年4月より利用料金は消費税が改定されています。



地域	施設名	所在地	利用料金（消費税含）				収容人員	予約窓口	予約方法など
			宿泊料	朝食	夕食	入湯税			
関東	城ヶ崎荘	〒413-0213 静岡県 伊東市富戸961-1 電話0557-51-1092 FAX なし	¥3,240	¥560	¥1,940	¥150	48名 宴会16名	コマツ健保組合 電話03-5561-4749 FAX03-3584-6369	1, 5, 8月 利用前々月1日から （上記以外月は 利用前月） 3日間受付後抽選 休館日：水曜 第2,3,4火曜日
	麻布クラブ	〒106-0047 東京都 港区麻布2-2-2 電話03-3451-4669 FAX03-5233-1650	¥2,700	¥453	¥1,080	なし	34名 宴会30名	麻布クラブ 受付窓口 電話03-5561-4743 FAX03-3584-7772	利用日前月1日より先着順 土、祭日の夕食 日曜日の 朝食、夕食はなし 休館日：土曜、日曜日
	小山 コマツクラブ	〒323-0826 栃木県 小山市雨ヶ谷31 電話0285-27-0309 FAX0285-27-0409	洋室 ¥3,188 和室 ¥2,674	¥514	¥1,080	なし	14名 宴会80名	コマツクラブ 電話0285-27-0309	利用2ヶ月前よりコマツクラブ に直接申し込み 電話で仮予約、FAXで申し込み 休館日：日曜日
関西	大阪 コマツクラブ	〒573-1175 大阪府 枚方市上野2-2-20 電話&FAX 072-845-5310	¥4,104	¥432	なし	なし	18名 宴会 108名	コマツゼネラル サービス 電話072-840-6356	電話で仮予約 FAXで申込書 送付 先着順 年中無休 （年末年始、GW、お盆は 予約営業）
北陸	松風荘	〒923-0311 石川県 小松市木場町メ2-1 電話0761-43-1100 FAX0761-44-5315	本館 ¥2,200 新館 ¥2,630	¥430	別途設定	宿泊料金 に含む	60名 宴会76名	予約専用フロント 電話0761-43-1100 または0761-44-3255	電話で仮予約 FAXで申込書 送付 定員超えた時は抽選 休館日：月曜、火曜日
	コマツ氷見 海浜クラブ	〒935-0024 富山県 氷見市窪3173 電話0766-91-5337 FAX0766-91-7595	¥3,390	¥540	1080	宿泊料金 に含む	16名 宴会48名	直接 クラブ管理人室へ 電話0766-91-5337 FAX0766-91-7595	利用日の2ヶ月前より受付 定員超えた時は4日目に抽選 電話で仮予約、FAXで申し込み 休館日：火曜、水曜日
	コマツ福光荘	〒939-1613 富山県 南砺市川西640-1 電話0763-52-0113 FAX0763-52-0114	¥3,390	¥432	別途設定	宿泊料金 に含む	22名 宴会50名	直接 コマツ福光荘へ 電話0763-52-0113 FAX0763-52-0114	電話で仮予約 FAXで申込書 送付 定員超えた時は抽選 休館日：月曜、火曜日

コマツ社員クラブ・保養所の紹介

城ヶ崎荘

- コマツ唯一の保養所
- 風光明媚な天然温泉
- 伊豆近海の海の幸



観光スポット 城ヶ崎海岸

- ①城ヶ崎海岸：溶岩岩石海岸 伊東八景
- ②門脇吊橋：海蝕洞にある 断崖絶壁のスリル
- ③ほら納屋：ほら漁の根拠地で 現在磯料理屋

松風荘

- 加賀の奥座敷
- 静かな天然温泉宿
- 海の幸料理数々



コマツ発祥の地

- ①那谷寺：子供から大人まで楽しめるお寺
- ②こまつ神社：超高級なダンプトラックに大はしゃぎ
- ③安宅の関：義経と弁慶の涙の場所

コマツ氷見海浜クラブ

- 氷見のリゾート
- 海近く海水浴に最適
- キトキトな魚料理



きときと（活きのいい）魚のふるさと

- ①氷見漁港：漁場外市場 ひみ番屋街
- ②湊川カラクリ時計『虹の橋』1時間毎忍者ハットリくん
- ③氷見市海浜植物園：足元ゾクゾクな展望レストラン

麻布クラブ

- 都心の奥座敷
- 麻布の一等地
- 冬季のふぐコース、すきやきコース大好評



近所の麻布十番を探索

- ①商店街：江戸文化と現代モダンの融合
- ②浪花家荘本店：『およげ たいやきくん』のモデル
- ③永坂更科：徳川将軍が愛した御前そば

小山コマツクラブ

- 北関東のオアシス
- 一階の居酒屋が好評
- 広い宴会場で得意のカラオケ大会



関東、東北ローカル旅行

- ①水戸線 両毛線 真岡鉄道 わたらせ鉄道
- ②いちごの里：とちおとめ心ゆくまで堪能
- ③しもつけ風土記の丘：県立美術館と博物館

大阪コマツクラブ

- 関西のオアシス
- 一人ワンルームタイプ
- 広い宴会場で得意のカラオケ大会



古都京都と大阪の中間地点

- ①京阪電車で京都も大阪も約30分でアクセス
- ②ひらかたパーク：大阪NO2のテーマパーク
- ③山田池公園：四季折々の花々を楽しむ

コマツ福光荘

- 北陸の隠れ宿
- 海と山の幸料理
- 観光の拠点宿で天然温泉



静かな山のふるさと

- ①世界遺産の五箇山：春まつり 和紙まつり
- ②福光宇佐八幡宮の春季例大祭
- ③だまし川のほとりとかっぱ村祭り：祭りのふるさと

『コマツOBゴルフ同好会』の紹介

コマツOBの方でゴルフが好きな方々の集まりです。 月1回(10回/年)コンペを開催してゴルフを楽しんでいます。
皆さん同好会へご入会の上、ゴルフを楽しみましょう!!

平成27年の成績(上位のみの抜粋、飛賞・NPは省略)

敬称は省略

	第261回				第262回				第263回				第264回			
	平成27年3月17日				平成27年4月14日				平成27年5月12日				平成27年6月9日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	大田 晋吾	83	16	67	池田 外行	103	36	67	木本 信一	101	29	72	出口 俊雄	86	22	64
準優勝	高田 龍蔵	89	19	70	山本 良孝	102	33	69	中道 勝男	103	30	73	橋本 明	90	25	65
3位	片山 諭	92	21	71	小原 光和	83	13	70	高橋 芳信	104	30	74	長谷川 治	77	12	65
4位	田中 盛夫	97	27	70	前田 信行	81	10	71	金益 勝雄	96	22	74	田中 盛夫	93	27	66
5位	松田 行信	90	18	72	山本 晴充	91	19	72	安達 利勝	101	26	75	米久 厚生	94	27	67
6位	林 清孝	88	15	73	高田 龍蔵	86	14	72	林 清孝	91	15	76	山下 賢司	83	16	67
7位	金益 勝雄	95	22	73	中道 勝男	102	30	72	北野 元男	96	20	76	安達 利勝	94	26	68
B.B	朝岡 孫明	113	20	93	上田 幸久	118	28	90	大塚 由貴	122	24	98	船曳 祥男	107	20	87
B.G	前田 信行	83			前田 信行	81			山下 敏夫	90			長谷川 治	77		
特記事項	1.初出場の田中さん:2位⇒4位へ 2.東3にてホーリンガ達成:小原さん 3.特別賞:山本(晴)さん、小原さん				1.今月の特別賞(平日無料7 ^レ 券) (1)当日賞の淵田洋一郎さん (2)B.B賞より7 ^レ 5位の古戸 峻さん				1.今月の特別賞(同左) (1)当日賞:山崎雅弘さん (2)B.B賞より7 ^レ 5位の松林 廣中さん				1.今月の特別賞(同左) (1)当日賞:浅本博司さん (2)B.B賞より7 ^レ 5位の北村明雄さん			
(参考)	参加人数:51名				参加人数:57名				参加人数:63名				参加人数:67名			
	第265回				第266回				第267回				第268回			
	平成27年7月14日				平成27年8月11日				平成27年9月8日				平成27年10月13日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	古戸 峻	95	27	68	田中 盛夫	92	27	65	清水 豊	89	22	67	室 統季雄	85	16	69
準優勝	浅本 博司	103	34	69	安達 利勝	91	26	65	竹村 安造	91	23	68	木本 信一	92	20	72
3位	北野 元男	89	20	69	竹川 和信	87	20	67	本村 孝	92	24	68	東出 一夫	88	15	73
4位	小崎富美男	88	22	66	齊藤 貢次	82	15	67	松林 廣中	82	14	68	上田 幸久	102	28	74
5位	前田 信行	79	10	69	清水 豊	89	22	67	坂野 保	84	16	68	山下 敏夫	87	13	74
6位	齊藤 貢次	84	15	69	関戸 邦雄	81	13	68	齊藤 貢次	83	15	68	高田 龍蔵	89	14	75
7位	林 清孝	85	15	70	金益 勝雄	90	22	78	山下 賢司	85	16	69	深田 武男	101	26	75
B.B	大塚 由貴	116	24	92	橋本 明	105	16	89	山本 良孝	116	24	92	安達 利勝	108	17	91
B.G	関戸 邦雄	83			小原 光和	80			大田 晋吾	82			室 統季雄	85		
特記事項	1.初出場の小崎さん:1位⇒4位へ 2.当日賞:室統季雄さん 3.B.Bより7 ^レ 5位:中道勝男さん				1.東3にてホーリンガ達成:二輪さん 2.当日賞:大間豊光さん 3.B.Bより7 ^レ 5位:北村明雄さん				1.当日賞:高倉 弘征さん 2.B.Bより7 ^レ 5位:古戸 峻さん 今月は上記より更に特別賞(省略)有				1.今月の特別賞(平日無料7 ^レ 券) 1.当日賞:小崎富美雄さん 2.B.Bより7 ^レ 5位:北村明雄さん			
(参考)	参加人数:54名				参加人数:54名				参加人数:52名				参加人数:52名			
	第269回				第270回(納会:WP)											
	平成27年11月10日				平成27年11月26日											
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET								
優勝	齊藤 貢次	81	15	66	片山 諭	84	13.2	70.8								
準優勝	高田 龍蔵	82	14	68	坂野 保	86	14.4	71.6								
3位	高倉 弘征	92	22	70	淵田洋一郎	82	9.6	72.4								
4位	上田 幸久	92	22	70	小原 光和	81	8.4	72.6								
5位	飛田 勇治	92	22	71	大塚 由貴	96	22.8	73.2								
6位	山下 敏夫	95	13	72	東出 一夫	83	9.6	73.4								
7位	山下 賢司	88	16	72	稲富 隆夫	95	21.6	73.4								
B.B	古戸 峻	115	22	99	山下 敏夫	79										
B.G	齊藤 貢次	81			高来 満	91	13.2	82.2								
特記事項	1.今月の特別賞(平日無料7 ^レ 券) 1.当日賞:中村 幸雄さん 2.B.Bより7 ^レ 5位:安達利勝さん				1.今月の特別賞(平日無料7 ^レ 券) 1.当日賞:飛田 勇治さん 2.B.Bより7 ^レ 5位:石堂俊明さん											
(参考)	参加人数:60名				参加人数:49名											

ゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡下さい

代表幹事:山田 俊昭

TEL:0761-23-0846 090-9768-1186

携帯Eメール toshi-yamada1121@ezweb.ne.jp

『コマツOBグラウンドゴルフ同好会』の紹介

コマツ栗津工場OB同好会グラウンドゴルフ大会 成績表

(上位入賞者のみ抜粋)

回 数	H27年 第1回	H27年 第2回	H27年 第3回	H27 第4回
日 時	H27. 7. 21(火)	H27. 9. 29(火)	H27. 11. 24(火)	H28. 1.20(水)
場 所	木場潟公園多目的広場	木場潟公園多目的広場	小松ドームアリーナ広場	小松ドームアリーナ広場
天 候	晴れ(猛暑)	曇 り		
参加人員		男45、女29、計74名	男64、女45、計109名	男73、女50、計123名
成 績				
男子優勝	長 英男(矢田野)	儀田 勝治(八幡)	(外部)	(外部)
準優勝	助田 俊勝(根上)	長 英男(矢田野)	(外部)	(外部)
3位	宮越 信夫(符津)	(外部)	(外部)	儀田 勝治(八幡)
4位	米田 清忠(根上)	(外部)	南 敏治(御幸)	中田久吾郎(根上)
5位	西田 久雄(栗津)	萩本 良一(御幸)	山田 一治(中海)	(外部)
女子優勝	長 和子(矢田野)	島崎美枝子(矢田野)	(外部)	中岡 静子(御幸)
準優勝	竹村 ミツ子(松東)	(外部)	(外部)	(外部)
3位	上田 喜美子(符津)	片山 励子(辰口)	水田多津子(御幸)	(外部)
ホールイン ワン賞				儀田 勝治(八幡)
				竹村 正次(松東)
				吉川 正雄(符津)
				森田 尚(根上)
				中岡 静子(御幸)
				山田 一治(中海)
ダイヤ モンド賞				儀田 勝治(八幡)

グラウンドゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡ください。

宮越 信夫 TEL/FAX 0761-44-1327

小松製作所栗津工場OB会規約

第1章 名称および目的

- 第1条 本会は「小松製作所栗津工場OB会」と称する。
ただし、「コマツ栗津工場OB会」と称することも可とする。
- 第2条 本会は会員相互の親睦・交流を図ることを目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は下記の者をもって構成する。
1. コマツ栗津工場の定年退職者。
 2. 本社・他事業所・関係会社へ出向または移籍後の定年退職者。
 3. 本社・他事業所・関係会社の定年退職者で、当地へ転入して入会を希望し、常任理事会がこれを認めた者。
 4. 上記に準ずる者で常任理事会が入会を認めた者。

第3章 機関および役員

- 第4条 本会の機関は、総会、常任理事会、および理事会とする。
- 第5条 総会は本会の最高決議機関であって、毎年4月に定期総会を開く。
なお、理事会において必要と認めた場合は、臨時総会を開催することができる。
- 第6条 1. 常任理事会は会長、副会長・会計・常任理事をもって構成し、会長の諮問に応ずるとともに、理事会への提案事項を審議し、会務を執行する。
2. 1項の会務および第24条の本会事業の円滑な遂行を図るため事務局を置く。
事務局は常任理事をもって構成し、事務局長・局員若干名とする。
- 第7条 理事会は会長・副会長・会計・常任理事・会計監査および理事で構成し、常任理事会からの提案事項・その他重要事項を審議し、会務を執行する。
- 第8条 各機関の決議は、出席人員の過半数の同意を必要とする。
- 第9条 本会には下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| 会 長 | 1 名 | 常任理事 | 若干名 |
| 副会長 | 3 名 | 会計監査 | 2 名 |
| 会 計 | 1 名 | 理 事 | 別に定める地区分会ごとに選出 |
- 第10条 役員は会員中より選出し、総会の承認を得るものとする。
- 第11条 1. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. ただし、最長期間は5期10年（役職通算とするが、地区理事の就任期間は除く）とし、役職による期間は3項による。
3. 1. 常任理事 4期8年とする。 2. 事務局長 3. 会計 4. 副会長 5. 会長 は各3期6年とする。
4. 改選時以外に就任した時は、3. の期間に加算するものとする。
- 第12条 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 第13条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 第14条 常任理事は会長、副会長を補佐し、会務を執行する。
- 第15条 会計は本会の会計を担当処理する。
- 第16条 会計監査は本会の会計を監査する。
- 第17条 理事は地区分会を代表し、会務を執行する。

第4章 地区分会

- 第18条 本会には別に定める地域割りによる地区分会を設置する。
- 第19条 地区分会は各々の地域内において、本会の設立目的に沿い諸活動を行う。
- 第20条 地区分会には前条目的達成のため、必要に応じ委員を置くことができる。

第5章 会 計

- 第21条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
- 第22条 本会の経費は次の収入をもって充当する。
会費・入会金・寄付金・コマツ栗津工場およびコマツユニオンからの賛助金。

- 第23条 1. 会費は年額2,500円とし、前年度末までに納入する。
2. 新規入会者は入会時に入会金2,000円を納入し、会費の納入は次年度よりとする。
ただし、65歳以上で入会する場合は、3,000円以上別に定める入会金とする。
3. 退会者（死亡者も含む）に対しては、既納の入会金・会費の払戻しはしない。
4. 会員が満90歳（4月1日現在で）を超えたる時、または、長期重度療養見舞を受けた
る時は、次年度より会費の年額を1,000円とする。
5. 白寿の祝いを受けられた方は、名誉会員として、次年度以降の会費の納入を免除する。

第6章 事業

- 第24条 本会は次の事業を行う。
1. 親睦・交流のための諸行事。
2. 会報および会誌の発行。
3. 会員名簿の作成および改訂配布。
4. 会員米寿および白寿の祝い。
5. 会員および会員配偶者の死亡に対する弔慰。ただし配偶者の場合は会員生存中に限る。
6. 長期重度療養者の見舞い。
7. ボランティア活動。
8. その他、本会の目的達成のために必要な事項。
9. 慶弔の基準は別に定める。

第7章 退会

- 第25条 1. 会員本人が退会の届出をした場合、および年度会費納入の請求に対し1年以上未納の
場合（住所・連絡先不明の場合を含め）は、退会とする。
2. 退会した場合は、会員名簿より氏名を削除し、以後は会員権利の行使を認めない。
3. 退会後の再入会は、やむを得ない事情があることを常任理事会が認めた場合に限り
これを認める。

第8章 付則

- 第26条 本会の規約改定および解散は、総会の3分の2以上の同意を必要とする。
第27条 本規約に定めなき事項については必要の都度、役員協議の上決定する。
第28条 本規約は昭和53年（1978年）6月4日より施行する。

最終改定日 平成25年4月25日総会にて決定。

【内部規定抜粋】

・慶弔基準

1. 米寿および白寿祝い
満88歳および満99歳を迎えた方に、5,000円相当のお祝いを贈呈する。
2. 長期重度療養者見舞い
3ヶ月以上、施設または自宅で療養中であり、かつ要介護3以上と認定された方が対象。
お見舞金は、10,000円、同一人に対して1回とする。上期と下期の2回調査する。
3. 会員および配偶者死亡にたいする弔慰
会員の死亡には、香典10,000円、生花1基、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。
会員配偶者の死亡には、香典5,000円、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。

・定期外入会者の入会金

- 65歳未満の入会者・・・入会金 2,000円
65歳以上～70歳未満の入会者・・・入会金 3,000円
70歳以上は常任理事会の承認を得て・・・入会金 5,000円
他工場OB会から転入した場合・・・入会金不要、入会年度会費必要

編集後記：

今年も「コマツ栗津工場OB会誌第三十七号」が発行されることとなり、あらためてご投稿いただいた方々は勿論のこと、OB会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

本年度の特集記事は二〇一五年五月一七日に木場潟公園で行われた植樹祭としました。おそらく栗津工場に昭和天皇がおいでになられたときの記憶を思い出された方も多かったのではと思います。私もOBとして応募し参加の機会を得ました。勿論、広い会場ではスクリーンを通してしか両陛下を見ることはありませんでしたが、同じ空気を吸っているのだと思うと何ともいえない感動を覚えました。こまつの杜も開園以来五年目を迎え、OBのボランティア参加者も延べ六〇〇〇人に達するとのことです。活動する分野もグリーン部会、イベント部会、すくすく教室部会、サポート部会と四部会となり、年毎に新しい活動の輪が広がっていることが分かります。また小松工場跡地に本社機能を一部移設し研修センターが設立され、こまつの杜を併設して地

元の地域活性化に寄与している先例として、国会議員や報道関係者もたくさん訪れたようです。北陸新幹線開通の効果もあるのかもかもしれません。ありがとうございます。

OB会員からお手紙をいただき「介護施設に通所しているが、たまに会誌の原稿を書いており、施設の仲間に見せるのが楽しみ」とありました。この小さな会誌が会員皆様の周りで話題となり、少しでもお役に立てるのならこんな嬉しいことはないと感じます。

これからの一年、皆さんお一人お一人が元気に過ごせること、OB会活動へのご協力をお願い申し上げて結びとさせていただきます。

本号の感想をお寄せ下さい

会誌第37号で、最も面白かった投稿、印象に残った投稿その他感想を、竹田までお寄せ下さい。

次号 会誌原稿募集

平成29年3月発行予定の会誌第38号の原稿を募集します。

●原稿募集要項

1. 字数は、四百字詰め原稿用紙10枚以内
(表題、写真含む)
2. 随筆、紀行文、思い出、俳句、川柳など
内容は問いません。
3. 表紙の写真・絵画も募集。
4. パソコン利用の方は、ワードデータで送信してください。
5. 原稿締め切り H28年11月末日
原稿送付先 および お問合せ
小松市串茶屋町丙5・5 竹田 敏洋
TEL 0761(44) 1004
メールの場合
t.takeda68@jasmne.ocn.ne.jp
6. 原稿締め切り H28年11月末日
原稿送付先 および お問合せ
小松市串茶屋町丙5・5 竹田 敏洋
TEL 0761(44) 1004
メールの場合
t.takeda68@jasmne.ocn.ne.jp

コマツ栗津工場OB会

会誌 第三十七号

発行日 平成二十八年三月十八日
発行者 OB会会長 西尾 皓史
発行所 石川県小松市符津町ツ二十三
コマツ栗津工場OB会
編集者 会誌編集委員会(常任理事会)
委員長 竹田 敏洋
事務局長 向井 良夫
電話 〇七六―二二―七三三〇
印刷所 石川県小松市向本折町八一七
一 有限会社 斉藤印刷

平成27年度行事フォト・ハイライト

総合研修センタ見学会

H27.3.27(金)

大会議室「白山」で
佐藤所長から
研修センタの紹介を
していただく



テクノトレーニング
センタにてスタッフより
説明をしていただく

テクノトレーニング
センタにて
カットモデルを見学





研修センタ会議室「白山」の写真

総合研修センタの会議室にはそれぞれ、地元こまつの樹木や花の 名前がつけられており、写真で紹介されています。

大会議室は「白山」となっており、OB会員である写真家、福島健介さん（国府）の白山の四季などの写真が入口6か所に掲げられています。こまつの杜へお越しの際は研修センタへ立ち寄りいただいて、実物をご覧ください。写真の撮影場所を知りたい方は、研修センタ事務所へお尋ねください。なお福島さんは2014年度の「小松市社会教育賞」を受賞されておられます。